

島原市まち並景観賞 10 周年 記念 誌

「わが家でも水と緑の街づくり」

島原市地域住宅計画 (HOPE) ホープ 計画

1998

島 原 市

CONTENTS

「まち並景観賞」10周年記念誌発刊にあたって.....	1
島原市まち並景観賞の10年を振り返って.....	2
受賞者一覧.....	4
受賞者の声.....	8
島原市まち並景観賞受賞作品	
・ 1988年.....	14
・ 1989年.....	18
・ 1990年.....	22
・ 1991年.....	26
・ 1993年.....	30
・ 1994年.....	34
・ 1995年.....	38
・ 1996年.....	42
・ 1997年.....	46
・ 1998年.....	50
島原市まち並景観賞表彰実施要綱.....	55
島原市まち並景観賞募集・表彰実施要領.....	55
HOPE計画から街並み景観づくりへの展開.....	56
まち並景観賞応募件数と表彰内訳.....	61
HOPE計画推進事業年表.....	62
委員一覧.....	64
高齢者等住宅計画推進事業.....	65
推進事業スケジュール.....	70
今、取り組んでいること、これから取り組むこと.....	72



島原市長
吉岡 庭二郎

「まち並景観賞」10周年記念誌 発刊にあたって

私たちの島原市は、7万石の城下町としての歴史や他にみられない湧水群、地元産の安山岩を利用した石塀など、個性に富んだ自然や文化等に恵まれ、「火山と共に生きる湧水と歴史の国民公園都市」を目指したまちづくりをすべく、各種事業の推進に努めております。

こうした中、島原市では昭和59年度からHOPE計画（地域固有の環境を備えた住まいづくり）を策定し、これに基づいた快適な住環境を創造するための各種事業を進めております。

また、昭和62年度からは事業の一環として、島原らしいまち並景観の形成に寄与していると認められる優れた建築物等を表彰する「まち並景観賞表彰」の制度を設け、まち並景観の向上と市民の意識高揚を図っております。その後、雲仙普賢岳噴火災害により中断したものの平成9年度の表彰で10回目となり、受賞作品も100点の素晴らしい実績を残すことが出来ました。このことは、市民の皆様が行政と一丸となって素晴らしいまち並づくり、都市づくりに取り組んでいただいた賜物であると考えているところであります。

このように「まち並景観賞」を継続させていくことが最も重要だと考えておりまして、これからの島原市の街づくりを進めるにあたっての励みとなることを祈念するものであります。その成果として、いずれ線となり面的な広がりを見せてきたとき、おのずと後世へ誇りを持って残せる文化遺産となることを確信致しております。

これまで応募にご協力いただいた市民の皆様や石野選考委員長をはじめとする選考にあたられました先生方に深く深謝申し上げますと共に、皆さま方のなお一層のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

平成10年3月



選考委員長
石 野 治

島原市まち並景観賞の 10年を振り返って

昭和62年に始まった島原市まち並景観賞は、平成9年度の表彰をもって10回を数え、表彰作品も100件に達しました。途中、平成3年度は雲仙普賢岳噴火災害のため中止のやむなきに至りましたが、翌年から再開し、今回表彰作品100件のすばらしい実績を残すことが出来ました。この表彰制度は、昭和59年に策定されたHOPE計画の推進の一環として制定されたものですが、全国に誇れるすばらしい成果であると確信しております。この10年間、市当局と市民をのタイアップによって続けられた表彰制度に関係し、その作品選考に参加させていただいたことは、私にとって誠に光栄であり、すばらしい体験でもありました。今振り返って感無量のものがあります。

“わが家でも水と緑のまちづくり”これが島原HOPE計画が策定されたときの計画推進のスローガンです。第1回の景観賞で奨励賞受賞の「⑨ 清水強郎植え込み」は、小さな提案でありましたが、“小さなスペースの大きな心遣い”をしてその後の作品

選考に大きな一石を投じたものでした。以降諸謂ポケットパークとして、第2回の「⑭ 親和銀行駐車場庭園」「⑮ 中村眼科医院前ポケットパーク」「⑯ 商工会議所前・商工の泉」「⑰ 街かどギャラリー」「⑱ ウイルビーポケットパーク」等や、住宅でも「⑳ 若松ヨシエ邸」「㉑ 深瀬和幸邸」等、優れてまち並景観に寄与する作品が生まれました。

「㉒ 水頭ポケットパーク」もその一つですが、「㉓ 鯉の泳ぐ城下町」「㉔ 県立島原高校洗い場」「㉕ 鯉の泳ぐまちポケットパーク」等とともに“水”をテーマにした正に島原らしい景観の創出と言えるでしょう。

島原らしいといえば、石積塀があります。「㉖ 古瀬順一邸」「㉗ 武家屋敷通石垣塀」「㉘ 吉田近達邸」「㉙ 九電工社宅」「㉚ 大場昭生邸」等がそれで、普賢岳噴火災害で失った多くの亀ん甲積の石垣による景観を、島原のまち並に蘇らせる確実な一歩と言えるであろう。

受賞作品の中には、「③ 島原図書館」や「㉛ 島原鉄道島原駅舎」のように規模が大きく、島原の景観に大きなインパクトを与えている作品があります。一方、規模はさほどではない、或はむしろ小規模な建物でも、その地域にぴったり当てはまっていて、其処に無くてはならない風情を持った作品もありました。「㉜、㉝ 中屋商店」「㉞ 榊原民具資料館」「㉟ 絃燈舎」等を挙げる事が出来ます。

地域と結びつくものと言えば、地域に伝承された島原の景観の保全に大きな役割を果たしたものとして「保全賞」に輝いた作品、「㊱ 松尾昭和邸」「㊲ 喫茶ケルン」「㊳ 山崎本店酒造場」「㊴ 宮崎邸石垣練り塀」「㊵ 島崎徳雄邸（鯉の泳ぐまち）」「㊶ 中屋商店」等は貴重であります。

初め、まち並景観のもっとも大きな要素は住宅であります。今回の表彰作品100の中でも40数件と半数近くを占めております。その一つ一つを紹介することは、紙面が許しませんが、これら住宅の質は大変高く、島原地方の設計から施工に至る住宅建築技術の高さが反映されたものであり、又周辺のまち並景観を念頭においた計画当初からの姿勢が、その技術を一層高次元のものとしていると言うべきでありましょう。

店舗、飲食店、ホテル等商業施設はその性格上、人目の多い地域に立地することが多いのですが、受賞作品の約1割を数えたこれらの商業建築は夫々、島原らしい装いをもって、まち並の景観整備に大きな役割を果たしています。

島原らしいという言葉は、その内容を定義するのは困難で、「島原の伝統的な技術

や地場産の材料、水や緑を生かした風情」を最大公約数として理解しています。しかし地域や建物の種類によっては、そのような表現をストレートに要求することがかえって不自然であることも多く、大切なのは、その建築に求められる内容とその視覚的表現とが一致していて、なお周辺の環境とマッチしていることではないかと考えています。商業施設の他に事務所建築、医療、福祉・保育等の各施設もその範疇にはいりますが、今回も数件これらの範疇の作品が建築としての本来の美しさを評価され表彰されています。

公共団体が自らの手で率先してまちづくりに関与する学校、公園、便所、港湾施設や共同住宅等の受賞は、担当した設計者の業績として表彰されたもので、確実に島原の景観づくりを推進しているものです。また半公共的性格の寺院の練り塀や門の表彰もありましたが、「㊷ 島原城内時計台」のように、公共的空間に民間の善意によって提供された好ましい点景の例もありました。

雲仙普賢岳災害は、島原のまちにも大きなダメージを与えましたが、「㊸ グリーンハイツ」や「㊹ 栄町コーポ」は被災者のための県借り上げ共同住宅で、この10年間におきた大事件を反映したものとして貴重であります。

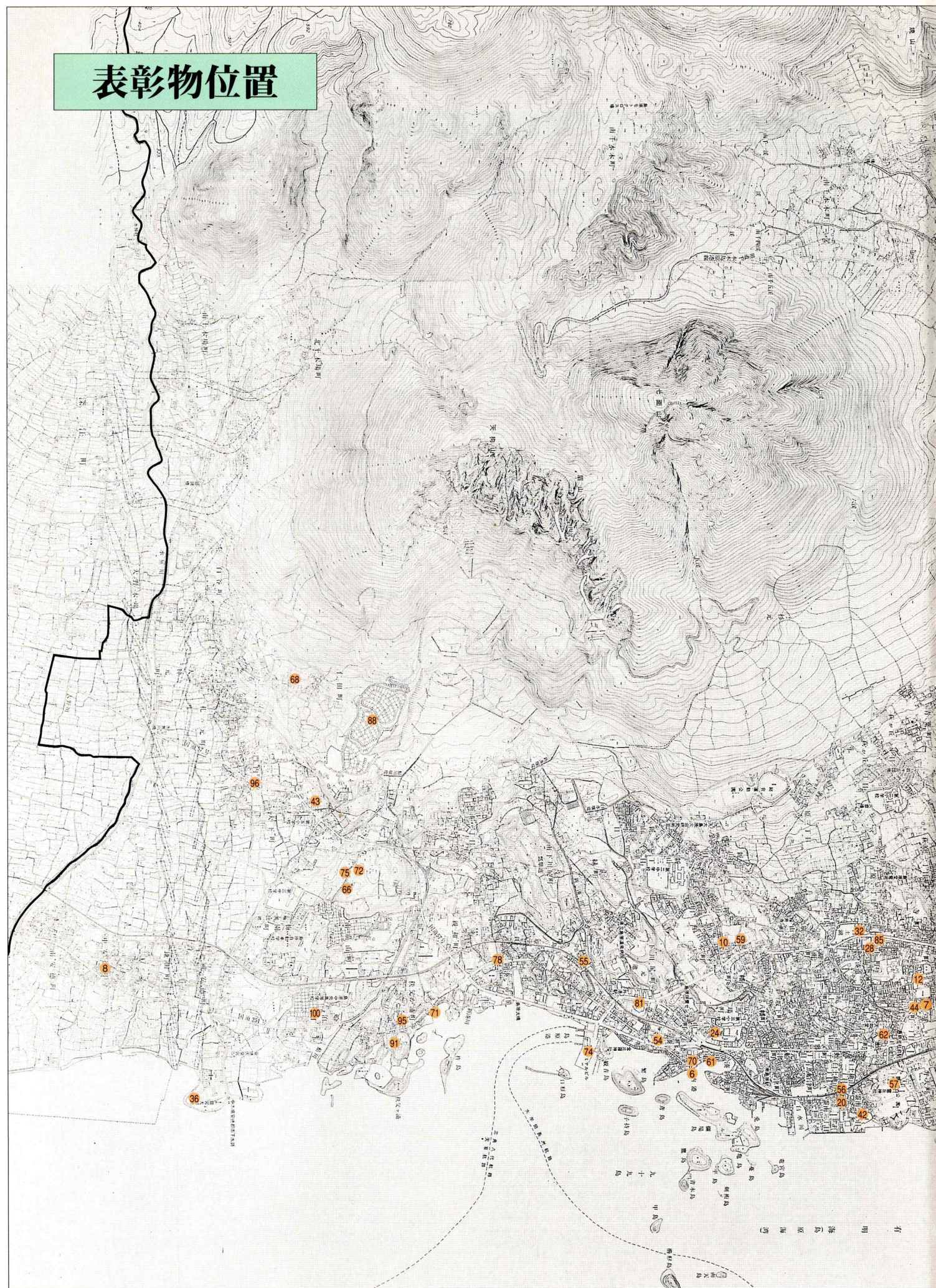
以上島原市まち並景観賞の10年を振り返ってみました。最後に申し上げたいのは、100件の表彰作品の他にも、惜しくも選に漏れた優れた作品が多くあったことであります。紙面を借りて、これらの関係者に心から謝意を表すものであります。

受賞者一覧

年	番号	賞	名 称	所 在 地	所 有 者	設 計 者	施 工 者	完成年月日
1988	①	景観賞	県立島原高校洗い場	城内二丁目	島原高校	島原市	九州建設㈱	昭和62年 3 月20日
	②	景観賞	中屋商店	城内一丁目	中島フミエ	吉田建築工業	吉田建築工業	昭和61年 2 月11日
	③	景観賞	島原図書館	城内一丁目	島原市	㈱武建築設計研究所	東栄建設㈱、島原建設㈱	昭和61年 3 月25日
	④	景観賞	大手門警察署派出所	城内一丁目	島原警察署	長崎県警察本部会計課 (㈱)田口建築設計事務所	(㈱)徳永工務店	昭和61年 3 月26日
	⑤	保全賞	喫茶ケルン	高島二丁目	山崎 孝司			昭和62年12月
	⑥	保全賞	松尾 昭和邸	中組町255	松尾 昭和			昭和62年
	⑦	協力賞	鯉の泳ぐ城下町	新町二丁目	下新町町内会			随時
	⑧	協力賞	古瀬 順一郎 石堀	中安德丁465	古瀬 順一	㈱古瀬組		昭和60年 3 月
	⑨	奨励賞	清水 強郎 植込み	上の町865	清水 強	㈱宮本造園		昭和61年10月30日
	⑩	奨励賞	喜多 猛郎 生垣	栄町8632	喜多 猛			随時
1989	⑪	景観賞	枅原民具資料館	城西中の丁1988	枅原 武之	㈱藤元工務店	㈱藤元工務店	昭和63年12月30日
	⑫	景観賞	水頭ポケットパーク	中堰町51	水頭自治会	島原市	竹内建設㈱、入江建設	昭和63年 3 月25日
	⑬	協力賞	本光寺庫裡・練り堀	本光寺町	宗教法人 本光寺	㈱安井建築設計事務所	(㈱)増崎組、(㈱)寺中組	昭和63年 5 月31日
	⑭	協力賞	安養寺・練り堀	桜町980	宗教法人 安養寺	吉田一級建築事務所	吉田石材店、本多建塗	昭和62年 8 月 5 日
	⑮	協力賞	島原城内時計台	城内一丁目	国際ソロプチミスト島原	園田建築事務所	水田住研	昭和63年 9 月26日
	⑯	協力賞	武家屋敷通り石垣堀	下の丁	武家屋敷保勝会	島原市	(㈱)寺中組	昭和63年 2 月
	⑰	奨励賞	富永 忠夫邸 茶室	下新丁2416	富永 忠夫	森山建設	森山建設	昭和63年 9 月30日
	⑱	奨励賞	吉田 近達邸	上新丁三丁目2602	吉田 近達	㈱藤元工務店	㈱藤元工務店	昭和63年11月30日
	⑲	奨励賞	親和銀行駐車場内庭園	桜町977	親和銀行島原支店	佐原工務店	美緑園	昭和63年12月
	⑳	奨励賞	柴田 実邸	雲南一丁目59	柴田 実	(㈱)宮本造園	(㈱)宮本造園	昭和61年12月10日
1990	㉑	景観賞	北田邸と店舗	亀の甲町乙1650ー 4	北田 幹二	インテリアBOX 寺田建築設計事務所	田浦建築工業	平成元年 9 月10日
	㉒	景観賞	島原鉄道島原駅舎	片町586ー 1	島原鉄道㈱	中村建築事務所	㈱米田建設	平成元年11月30日
	㉓	景観賞	姫松屋	城内一丁目1208ー 3	(㈱)姫松屋	吉田一級建築事務所	(㈱)徳永工務店	平成元年 9 月19日
	㉔	奨励賞	原口 周邸	白山町83	原口 周	㈱東建築設計長崎研究所	㈱米田建設	平成元年 4 月25日
	㉕	奨励賞	ホテル住吉館	中町548	(㈱)住吉館	園田建築事務所	水田住研	平成元年12月10日
	㉖	奨励賞	渡邊 邸	古丁2346ー 4	渡邊 秀孝	園田建築事務所	宅島建設㈱	平成元年 1 月31日
	㉗	保全賞	宮崎邸石垣練り堀	城内一丁目1188	宮崎 六夫	星野建設㈱	星野建設㈱	平成元年11月
	㉘	保全賞	鏡山崎本店酒造場	白土町1065	山崎 重裕	㈱米田建設	㈱米田建設	平成元年10月
	㉙	協力賞	島田菓子店	中町809ー 2	島田 慶一	田中建築設計事務所	島田内装表具	平成元年 4 月
	㉚	協力賞	西堀端身障者便所	城内一丁目1211ー 4	島原市	島原市	九州建設㈱	平成元年 3 月
1991	㉛	景観賞	医療法人中村眼科医院前ポケットパーク	中町829	医療法人中村眼科医院	(㈱)相和設計	清水建設㈱長崎営業所	平成 3 年 1 月
	㉜	景観賞	白土湖緑道公園	上の原二丁目	島原市	島原市	吉岡組	平成 2 年12月25日
	㉝	保全賞	島崎 徳雄邸	新町二丁目245	島崎 徳雄	㈱米田建設	㈱米田建設	平成 2 年 6 月30日
	㉞	奨励賞	㈱丸電工社宅	城西中の丁2096	㈱丸電工	星野建設㈱	星野建設㈱	平成 3 年 1 月10日
	㉟	奨励賞	生田米穀店	今川町1857	生田 孝	増崎工務店	増崎工務店	昭和63年12月 1 日
	㊱	奨励賞	藤原 弘子邸	北安德町丁978ー72	藤原 弘子	吉田一級建築士事務所	坪田組	昭和63年 8 月
	㊲	協力賞	吉田日出夫邸	下の丁2004ー 1、2005	吉田日出夫	出口一級建築士事務所	昭和技建工業	平成 2 年10月15日
	㊳	協力賞	第一中学校堀及び門	城内一丁目	島原市	島原市	㈱九州建設	平成 2 年 9 月
	㊴	協力賞	島原商業高校ランド堀	城内一丁目	長崎県	長崎県立島原商業高校	宮崎工業	平成 2 年 7 月14日
	㊵	協力賞	商工会議所前・商工の泉	高島二丁目	島原商工会議所	(㈱)宮本造園	(㈱)宮本造園	平成 2 年 2 月
1993	㊶	景観賞	三原 保邸	亀の甲町乙1688	三原 保	園田建築事務所	宅島建設㈱	平成 4 年 5 月
	㊷	景観賞	田島 正也邸	雲南一丁目33、34	田島 正也	(㈱)前田組	(㈱)前田組	平成 4 年 9 月
	㊸	奨励賞	園田 敏信邸	大下町丙1025	園田 敏信	三栄設計	園田満則建築	平成 4 年12月
	㊹	奨励賞	杉村 陽平邸	弁天町一丁目94	杉村 陽平	田中建築設計事務所	(㈱)平成建設	平成 4 年 1 月
	㊺	奨励賞	朝日生命島原ビル	高島一丁目402ー30	朝日生命	清水建設㈱九州支店	清水建設・米田建設JV	平成 4 年11月
	㊻	奨励賞	九州電力㈱島原営業所	城内一丁目1207ー 1	九州電力㈱	九州電力㈱長崎支店土木建築課	金子建設㈱・㈱芦塚工務店JV	平成 3 年 3 月
	㊼	協力賞	福島 保悦邸	高島一丁目422	福島 保悦	田中建築設計事務所	島田内装表具	平成 3 年 3 月
	㊽	協力賞	磯野 定道邸	上の町927ー 2	磯野 定道	(㈱)入江工務店一級建築士事務所	(㈱)入江工務店	平成 3 年 7 月
	㊾	協力賞	ガレージ食堂	今川町1305	馬場カツエ	三栄設計	井上住建	平成 4 年 4 月
	㊿	協力賞	田浦 政雄邸	今川町1307ー 1	田浦 政雄	江川一級設計事務所	山口 一昭	平成 4 年 8 月

年	番号	賞	名 称	所 在 地	所 有 者	設 計 者	施 工 者	完成年月日
1994	㊿	景観賞	県教職員住宅	城内二丁目1038	公立学校共済組合	㈱小西忠徳設計事務所	九州建設㈱	平成 3 年 3 月20日
	㊿	景観賞	いけす割烹 花みずき	中町548	(㈱)住吉館	(㈱)園田建築事務所	建物：宅島建設㈱ 造園：(㈱)宮本造園	平成 5 年12月15日
	㊿	景観賞	藤田屋チェリー豆店	今川町1850ー 8	(㈱)藤田屋本家	(㈱)園田建築事務所	建物：宅島建設㈱	平成 5 年 1 月31日
	㊿	奨励賞	山本 富治邸	湊町285	山本 富治	(㈱)園田建築事務所	米田建設㈱	平成 4 年12月20日
	㊿	奨励賞	グリーンハイツ	下川尻町7971ー11	宅島 寿晴	(㈱)園田建築事務所	宅島建設㈱	平成 5 年12月15日
	㊿	奨励賞	御菓子司 永昇堂	白土桃山二丁目1159	永木 昇		珠林組	平成 5 年12月 1 日
	㊿	奨励賞	川口 吉郎邸	弁天町7343ー 2	川口 吉郎	(㈱)園田建築事務所	吉田工務店	平成 5 年 3 月25日
	㊿	協力賞	南高産業株式会社	今川町1299	山下 隆司	㈱濱崎建築設計事務所	宅島建設㈱	平成 5 年 1 月10日
	㊿	協力賞	栄町コーポ	栄町8622ー 4	上田 俊春	田中建築設計事務所	長崎県南部建設業共同組合	平成 5 年 8 月31日
	㊿	協力賞	崇台寺山門及び石垣堀	萩原二丁目1224	安藤 光宣	山門：藤元工務店 石垣：吉田石材	山門：藤元工務店、堀：本多建塗	平成 5 年12月20日
1995	㊿	景観賞	(㈱)辰日屋総本店	中組町275	水谷 幸一	㈱藤元工務店設計事務所	㈱藤元工務店	平成 6 年 2 月10日
	㊿	景観賞	大石 一保邸	弁天町一丁目7413	大石 一保	(㈱)園田建築事務所	吉田工務店	平成 6 年11月30日
	㊿	景観賞	(㈱)中村防災	浦の川町2150ー 1	中村 肇子	佐藤和男建築研究所	川田建設工業㈱	平成 6 年10月 1 日
	㊿	保全賞	中屋商店	城内一丁目1186	中島 良平	(㈱)吉田建築工業設計事務所	(㈱)吉田建築工業	平成 6 年11月 1 日
	㊿	奨励賞	今坂 正継邸	白土町1150ー 4	今坂 正継	(㈱)園田建築事務所	㈱米田建設	平成 6 年 9 月30日
	㊿	奨励賞	株式会社 古瀬組社宅	大下町2410ー36	㈱古瀬組	田中建築設計事務所	㈱古瀬組	平成 6 年 4 月 1 日
	㊿	協力賞	中村 肇子邸	新建2106ー 2	中村 肇子	佐藤和男建築研究所	川田建設工業㈱	平成 6 年10月 1 日
	㊿	協力賞	前田 千穂邸	仁田町乙853	前田 千穂	インターメディア一級建築士事務所	園田工務店	平成 6 年 3 月 6 日
	㊿	協力賞	株式会社 吉川組	中町803ー 1	吉川 学	本田設計建築事務所	㈱吉川組	平成 6 年 6 月30日
	㊿	協力賞	松尾昭和宅倉庫	中組町252ー 1	松尾 昭和	二級建築士事務所 増崎工務店	増崎工務店	平成 6 年12月15日
1996	㊿	景観賞	(㈱)杉田ボーリング事業所	秩父が浦町丁3587ー 7	杉田豹獅狼	(㈱)園田建築事務所	宅島建設㈱	平成 7 年11月 1 日
	㊿	景観賞	北田 秀喜邸	大下町丙1214	北田 秀喜	橋本設計事務所	園田工務店	平成 7 年 4 月 1 日
	㊿	奨励賞	老人保健施設 フォスター島原	中野町丙271	木下 眞吾	㈱企画工房	㈱熊谷組九州支店	平成 7 年 9 月30日
	㊿	奨励賞	島原外港 1 号・2 号可動橋機械室	下川尻町 6	長崎県	インターメディア一級建築事務所	加藤建設㈱	平成 7 年 7 月20日
	㊿	奨励賞	池田 繁義邸	大下町丁2410ー19	池田 繁義	本田設計建築事務所	(㈱)増崎組	平成 7 年 2 月 1 日
	㊿	協力賞	盧田 矩敬邸	城内二丁目1035	盧田 矩敬	田中設計事務所	(㈱)植田建設	平成 7 年 9 月 1 日
	㊿	協力賞	峰 安夫邸	高島二丁目7240ー10	峰 安夫	ホンダ建築設計事務所	(㈱)島田内装表具、上田建設㈱	平成 7 年 3 月20日
	㊿	協力賞	入江整骨院	新和町 2	入江 忠臣	(㈱)入江工務店一級建築士事務所	(㈱)入江工務店	平成 7 年 5 月30日
	㊿	協力賞	鯉の泳ぐまちポケットパーク	新町二丁目	島原市	島原市	㈱米田建設	平成 6 年 3 月31日
	㊿	景観賞	街かどギャラリー	高島一丁目445ー 3	若松ヨシエ(用地協力)	生活・空間デザイン研究会(企画)	生活・空間デザイン研究会	平成 8 年 5 月 5 日
1997	㊿	景観賞	島原ショッピングモール ウィルビーポケットパーク	湊町66	(㈱)アイビー企画	(㈱)宮本造園、(㈱)シビルライフ 吉田一級建築士事務所	(㈱)宮本造園、(㈱)シビルライフ 星野建設㈱	平成 8 年 3 月15日
	㊿	景観賞	大竹弥寿彦邸	城内一丁目1111ー 2	大竹弥寿彦	インテリアデザイン事務所BOX (㈱)宮本造園、橋本一級設計事務所	㈱新栄建設	平成 8 年11月30日
	㊿	奨励賞	すし勝二軒茶屋店けやき	前浜町甲15ー 2	下田 和夫	インテリアデザイン事務所BOX(企画) 星野建設㈱	星野建設㈱	平成 8 年10月10日
	㊿	奨励賞	桜花保育園	亀の甲町乙100	社会福祉法人 さくら福祉会	本田設計建築事務所	㈱三青	平成 8 年 2 月29日
	㊿	奨励賞	宮崎 金助邸	古丁2272	宮崎 金助	馬場住宅㈱	馬場住宅㈱	平成 8 年 8 月31日
	㊿	協力賞	鹿田 訓也邸	新町二丁目121ー 1	鹿田 訓也	㈱濱崎建築設計事務所	㈱米田建設	平成 8 年 1 月31日
	㊿	協力賞	若松ヨシエ邸	高島一丁目445ー 3	若松ヨシエ	㈱米田建設、(㈱)宮本造園	㈱米田建設、(㈱)宮本造園	平成 7 年12月 1 日
	㊿	協力賞	永田 龍虎邸	仁田町乙1845ー74	永田 龍虎	(㈱)園田建築事務所、(㈱)宮本造園	(㈱)昭和技建工業、(㈱)宮本造園	平成 8 年 5 月30日
	㊿	協力賞	特別養護老人ホーム 淡淡荘	江里町乙2010ー 1	社会福祉法人 楽山会	㈱日匠建築設計	㈱本村工務店	平成 7 年 4 月30日
	㊿	景観賞	絃燈舎 (和楽器みうら)	上の町864	三浦 典子	インテリアデザイン事務所BOX 森本園芸造園部	森本園芸造園部	平成 9 年 7 月
1998	㊿	景観賞	大場 昭生邸石垣堀	秩父が浦町丁3530ー 3	大場 昭生	増永 宝	増永 宝	平成 7 年 3 月
	㊿	奨励賞	安藤 正純邸	城内二丁目1008	安藤 正純	(㈱)伊東克麿設計事務所	小林建設	平成 9 年 5 月12日
	㊿	奨励賞	吉川 学邸	片町678ー 5	吉川 学	本田設計建築事務所	㈱吉川組	平成 9 年 3 月20日
	㊿	奨励賞	岩永 弘昭邸	中野町丙34ー 2	岩永 弘昭	㈱ムラヤマ、森本園芸造園部	㈱ムラヤマ、森本園芸造園部	平成 9 年 4 月24日
	㊿	奨励賞	古瀬 育洋邸	秩父が浦町丁3500ー 3	古瀬 育洋	(㈱)園田建築事務所、(㈱)宮本造園	(㈱)昭和技建工業、(㈱)宮本造園	平成 9 年 6 月 1 日
	㊿	奨励賞	小鉢 藤彦邸	門内町丙613	小鉢 藤彦	(㈱)園田建築事務所	園田工務店	平成 8 年11月15日
	㊿	協力賞	医療法人 城内会八尾病院及び八尾勝邸	城内一丁目1193	八尾 勝	小野設計㈱、(㈱)宮本造園	八尾病院新築工事施工共同体 (㈱)宮本造園	平成 9 年 4 月30日
	㊿	協力賞	会席料理 はしもとや	城内三丁目991	牟田口安信	(㈱)吉田建築工業設計事務所	(㈱)吉田建築工業	平成 9 年 1 月25日
	㊿	協力賞	坂口 龍彦邸	下の丁1945	坂口 龍彦	(㈱)園田建築事務所	田浦経晴	平成 9 年 5 月 1 日
	㊿	協力賞	深瀬 和幸邸	船泊町丁3306ー59	深瀬 和幸	(㈱)昭和技建工業、(㈱)大手口緑花園	(㈱)昭和技建工業、(㈱)大手口緑化園	平成 6 年11月 8 日

表彰物位置



「島原市まち並景観賞」受賞者の声

店舗兼工場の建て替えの時、島原城のお堀端という場所を意識し業者の方と意見を交わしながら、昔の倉をイメージした「合掌造り」風の店舗と決め建てることになりました。建ててからは、周囲の方々や来店されるお客様に大変好評で大変うれしく思いました。

ましてや、第1回「まち並景観賞」を受賞できましたことに二重の喜びを感じました。

その後、店舗以外の隣接した倉庫の改築を店舗を中心としたものとして考えていきました。倉庫も同じ「合掌造り」として、お堀端のイメージを壊さないように心掛けました。そのため保全賞という二度の賞を受けることができました。この賞を励みとしてより一層の島原のまちづくりに心掛けていきたいと思ひます。

(264 中屋 中島良平)

私が現在のケルンを開設したのは昭和50年で、その時代は喫茶店と云うのは、ほとんどが洋風の建築が主流でした。しかしその時点で約70年前の明治時代に出来た建築物を解体するにはしのびなく、なんとかコーヒーと和風の家をマッチさせることが出来ないかと考えました。それと島原は城下町と云うことで、観光客の人々が利用して下さるような城下町に似合った、デザインに出来ないかと色々思考した結果、現在のような和風で白壁の建物になり、はからずもまち並景観賞を頂くこととなったのです。

お立寄り下さる観光客の皆様から、幾度となくお褒めの言葉をいただいております。

島原は観光の町です。出来ることなら町並みを城下町風や、又商店街を和風にするとか出来ればいいのではないかと思います。

(6 喫茶ケルン 山崎孝司)

私達下新町の住民が町内を流れる清流を何とか生かして水と緑の新町を守っていこうと思ひ立ち、昭和53年7月試行錯誤の上鯉の放流を行いました、早いもので20年が過ぎた今では観光名所となっております。

そのような中で最初に意義のあるまち並景観賞の

協力賞を頂き私達町内会も維持管理に心を配り門扉、壁、屋根の色、高さ等について検討し、平成8年9月街づくりの協定書を全所帯で結びました。今後も住民一丸となって水と緑のまち並を守っていききたいと思ひます。

(7 下新町町内会長 藤田良彦)

「偶感」
歳月の経過と共に、景観賞の重みと、与えられた責任の重大さを、しみじみと感じている毎日です。
観光客から「いつ頃の建物か」「味がある」等々、好意的な質問・意見を受たり、近所の人たちから「いい建物を造って頂いて」と、おほめの言葉を頂くとき、感謝の気持ちと共に「造ってよかった」と、つくづく思ふ毎日です。

展示資料と共に、社会の文化財として、大切に守り、育てねばと思ひています。

(11 さかきばら郷土史料館 榊原武之)

私の「茶室と庭園」は第2回目の表彰で「奨励賞」を受賞し9年を経過しました。建築当初は出来るだけ目立たないようにと思ひておりましたので少しびっくりしました。

しかし受賞した以上は責任を持って環境の整備に心掛け特に茶花の栽培手入れや、毎年年末には庭園の仕切りの古い竹を新しい青竹に変えて新年を迎えています。そして中旬に初釜の行事を実施しているようです。今年は1月14日に行いました。

これからも「島原市まち並景観賞」に恥じない様につとめたいと思ひています。

(17 富永忠夫)

「先祖の遺産」

福知山から移住以来住み続けた芦屋には隅々まで先祖の生業の物語があった。

第一小学校の校長で郷土史家でもあった故 林銑吉先生は、亡父に芦屋の保存を説かれ、島原新聞にも掲載されたことがあった。

この芦屋を改築するに当たっては、昔の面影を残しながら居住の快適さをも考えて施行したが、芦屋を残したい願いと藤元工務店前社の熱意とが統合して、受賞の栄誉に花開いたものと感謝に堪えない。

(18 吉田近達)

第2回まち並景観奨励賞を受賞後、私達は今まで以上に気持ちよく「しんわの泉」を利用していたために、まわりの草木を手入れし、また夜間利用される方のために外灯を設置し、暗くてもよく見えるようにしました。

その外灯も駐車場内庭園にマッチするようなアンティークなものとしたため景観がさらによくなり、好評をいただいております。

銀行の駐車場の一角とは思えない風情と空間があり、道を歩く人たちに安らぎを与えていると思ひております。

(19 親和銀行島原支店)

あの頃は、古家に雨漏りがし、主人の病気の中、二人の子供の大学在学中と悩みの多い日々でしたが夢を抱いて家の図面は模索していました。

9年前、初市でのこと、庭師さんの声かけに思い切って建築をお願い完成しました。喜びに重ねての思いがけない受賞に、こんな小さな家なのに、主人と乾杯したのを思い出します。

現在も便利よく生活しておりますが、建築後は、庭師さん、大工さんとは幾度も聞かれたり、部屋を見ていかれました。自然を愛する私たちは植木も伸びた枝を切る程度に留め、草花も山野草系を好みます。通る人ごとに足を止め花をみて楽しんでおられます。

また、この地は名所の銀水へ全国各地から訪ねられ一寸した観光地。通りがかりに花々を眺め会話を

れたコミュニケーションの材料とも思ひます。環境にむずかしい山野草ですが、自分なりに工夫して育て役に立てたらと思ひています。

最後になりましたが建築に係下さった皆様ありがとうございました。

(20 柴田悦子)

島原駅は正面に島原城天守閣を望むことができ、古くから観光都市島原の玄関口として観光客の方々を出迎えるという重要な役割を担っています。このことから都市と建物とが一体となった島原を体験していただこうと駅舎を城門風建築とし、駅前には鯉を泳がせ、湧水を生かした造りとしております。

外観のみならず、ホームには市民の皆様の協力を得て花壇を置くなど環境の美化にも努めており、気持ちよく利用していただける環境を造ろうと日々努力しております。

(22 島原鉄道株式会社)

主体はケヤキとカーブした水路です。
8年前の増改築の折に、もっと緑を増やそうということで植樹したのがパーク内のケヤキであり、また以前は生活用水であった湧水を何か他のことにしようできないかということで思ひつたのが流水路です。

お茶でもたてられるのか、ヤカンで水を汲んでいる人の姿が見られたりまた水路の終わり部分にある池には鯉（近所の方からの贈り物）が泳いでおり景観に彩りを添えています。その水路には今ではコケが付着しており時の流れを感じます。

(31 関中村眼科医院)

嫁ぎ来て 野の幸洗いし古里の

門辺の小川 今も澄みたり

—島崎テル子—

(姉 昭和二〜平成九)

改修に当たり、設計者から同じ費用掛けるならば、二階建ての建築が可能だが、と問われたものだが、このまち並景観にこだわっているのですと、依頼して落成をみたのが、保全賞受賞となった築130年の古家である。

外壁を当初の漆喰壁に、腰の平瓦張り、木製の窓格子、低く押さえた軒先に改装したことで、評価されたものであるが、壊して造れば街づくりではなくて、周囲の一本一草まで大切に保存しつつ鯉の泳ぐ街に生かしてゆきたい。

(65 島崎徳雄)

私は、平成9年7月1日付で島原営業所勤務を命じられ、従業員より景観賞を受賞したとの事を聞き、これから管理をする事が大変だと思った。

それは、前任者から社宅を引き継いだとき、松の木が全く手入れができてなく、庭は荒れ放題でありました。それから、自分の出来る事から手入れを始めましたが、どうしても松の木の手入れが出来ません。それで、会社とも話し合ったが、この経済状況の中であり、もう少し我慢をしてくれとの事でありました。今後は、自分で出来る範囲で手入れをし、まち並景観賞に恥じない様にしていきたいと思っています。

最後になりますが、市の主幹部の協力を得て、すばらしい町作りに協力したいと思っています。

(64 株九電工 立石国孝)

10周年記念誌の発行おめでとうございます。

建築した時のことを思いおこせば、城下町島原のイメージを壊さないようにと思いレトロ調の看板をメインに考えて外観を決めたように思います。おかげさまで「米屋」という昔からの商売ですので、ネオン等もつけず、お客様の反応も良く、満足致しておりました。

栄えのある受賞をいただいてからも外装を塗り直

して管理をし、恥ずかしくないよう今後も気をつけていきたいと思います。

市民の皆様も新築等の際に景観が城下町のまち並と溶け込むようなデザインを工夫され島原市内が統一感のある市になるよう願っております。

(65 生田米穀店)

平成2年当商工会議所の創立50周年記念事業の一つとして、玄関横に「商工の泉」と名付けた小庭園を建設いたしました。翌年水の都を象徴する建造物としてまち並景観賞を頂戴し50周年記念の都市に花を添えさせていただきました。

通行者、観光客には評判が良いようですが、夏期には藻が生い茂り、植木は日当たりが悪いと思うようには成長してくれません。

たまには心ない人がゴミを捨てたりで、管理には苦勞していますが、見苦しい庭園にならないよう、今後も景観保持に努力していきたいと思っています。

(40 商工会議所)

93年からはからずも協力賞を受け大変感激した次第でした。近所の方のおほめの言葉や評判も耳にするとなんだかありがたく胸にじんと感じてきました。

そして家内とならんで神さま有難うと手を合わせたものです。

97年5月頃総板壁のぬり替を致しました。

受賞後の意識の変化とは、今日的環境美化へと心掛け励みたいと思う此の頃です。

当時普賢岳の噴煙降灰にて家屋の周囲や歩道清掃につとめたのも良き思い出の一つでもあります。

おわりに島原市まち並景観賞10周年記念誌発刊編集委員会皆様に感謝し御苦勞に心よりお礼申し上げます。

(50 田浦政雄)

平成6年3月「景観賞」の通知を受けて、びっくりしました。喜びと共に月日が経過するにつれて、「受賞建築物」に就いての、今後の責任感みたいな「心象」が出て来ました。タウン誌片手の旅人が立ちよって「カメラ」を向けるのを「再三」目にしました。市街地の中央ゾーンに所在し、周囲の環境も整備もされつつある昨今、植栽も人に優しく、販売する品々も、また「看板」等も、何かとトータルプランで自分流に「島原らしさ」を追いかける今日、明日です。

(55 藤田屋本家(チェリー豆) 藤田昌之)

わが家は平成7年度の受賞でした。

其の時はさほどの感動を覚える事は有りませんでしたが、時が経つにつれ「自宅計画」の参考にさせてくれと云う訪問客が市内は元より諫早あたりからも見えられ、そんな回数が増す度に御賞の重みを感じ心豊かに成った事を思い出す。今にして思えば契約書すらも取り交わす事なく出来上がった我家が、まち並景観賞と云う栄えある賞を載けた事に心から感謝を覚え、更には我が想像した家より幾倍もの出来映えに心躍らされた。

改めて棟(頭)領始め工事に関ったすべての方々。心から感謝を込めて言いたい。ありがとうございます。

(62 大石一保)

「島原市まち並景観賞」10周年おめでとうございます。

奨励賞を受賞し喜んで居ります。受賞後は賞に恥じない様に維持しようと思っておりますが、これも又出来ないのが現状であります。

ただ受賞後色々な方が見学にこられ、特に業者の方が多く、おたくの外観外壁の色のように作って下さいと施主の方に頼まれたので見せて下さいと言われてます。この言葉を耳にしたとき、心の中で「ヤッター」と叫んでしまいます。

「島原市まち並景観賞」がこれから先も、地域の活性化に役立つことを願うと共に、受賞作品をしっかり守っていききたいと思います。

受賞作品の今昔という企画を作ったらおもしろい

のではないのでしょうか？

(66 株古瀬組)

賞をいただいてからは、名に恥じないように造作、庭の手入れ、維持に、それなりに気配りは欠かせません。

気苦勞、配慮といえば、現存する島原の明治以来の古い建物、施設についても、保持、管理に並々ならぬご苦勞があったことと思います。

毎度の新造物のみならず、これらの既設建造物の賞も対象にしたら如何でしょう。

新旧のバランスのとれた配合、それも景観の持つ、本来の意義の一つでは、ないでしょうか。

湧水のまち島原を更に、水車のまわる町並みづくり、名木、名石の紹介など、ロマンの環境づくりに展開していくことも又楽しからずやではないでしょうか。

(76 盧田矩敬)

自分たちが生活しているまちを、少しでも住み易くした。潤いのある空間にしたい。そんな仲間が集まって、街のデザイン研究会を作りました。

そんな折、繁華街の中心に車一台分くらいのスペースを仲間が借り受け、ここにポケットパークを作ろうということで木を植え、足下に飛び石とジャリを敷き、花をあしらった。地域の評判も良く、皆さんに喜んでもらって気をよくした仲間は、ハロウィンのジャンボカボチャに灯りを入れ、ベンチを置いた。次は季節ごと変化を、という事でクリスマスイルミネーション、正月飾り、竹取物語等々、街かどギャラリーとして自分たちも楽しみながら、地域の方々にも喜んでもらえる。

全て各々の自己負担でやっていることですが、街のいたる所にそんな小さな空間がもっと作れたら、街が楽しくなるのになあって思いはふくらみます。

まち並景観賞を受賞して、益々私達も励みと同時に、手が抜けない責任を感じております。

(60 生活・空間デザイン研究会 代表 旭芳郎)

ウィルビーポケットパークは、地元主導型ショッピングセンター「ウィルビー」の「人に優しい店舗」というコンセプトに基づき人々の憩いの場として設置したものです。

当初よりウィルビーのお客様のみならず、バス待ちや通りがかりの方にもご利用いただいておりますが、まち並景観受賞やこれを機とした飲湯所の設置によって、これまで以上に注目されており、ご休憩に立ち寄られる方も増えているようです。

今後とも、やさしい木陰と鳥のさえずりで訪れる方に一服の清涼感を提供していきたいと考えています。

また、合わせて島原の玄関口である外港という場所柄、観光島原、島原温泉のPRにも寄与できれば幸いです。

(91 (有)アイビー企画)

島原市まち並景観賞表彰第10回目の節目とか、改めて敬意を表します。従って鯉の泳ぐまちの場所だけに私一人資することなく誠に細やかだが観光島原の一助になればと進んで「ポケットパーク」の新設地にその一部を提供した次第であります。

一方、永年想い続けていた従業員の研修の場となし、お茶・お花・其の他集いにふさわしい憩いの数寄屋風家、又趣味に教養の修練道場に利用しております。

依って一周忌終わり次第、希望される方々にも広く開放致したいと願っております。

ところで災害後、不況の中にも観光客も稍や増えているかと推測されますが、連休・土曜・日曜日など九州管内や遠く北海道・関東・東海・近畿地方からの旅行者の方が多いのに驚き、時にはお茶を出したり失礼にならぬよう努めて参りましたが、中にはお礼状だけでなく記念写真まで同封送ってくれる旅行者もあり私の一つの楽しみになっております。

まして山紫水明の伝統美を守る市民の一人として、島原人の受継ぐ素朴人情味とあじわえる言葉の中に、春夏秋冬環境の美化、庭木の手入れなど季節の花々を育てながら幾時でも何処かに咲く花の心で今後も一旅行者の身になり続けて行きたいと努力しております。

(95 鹿田 訓也)

第10回「まち並景観賞」の栄に浴し、大変恐縮している。平成3年6月、思いもよらぬ普賢岳の土石流災害で一夜にして家、屋敷が流失し、悲歎のどん底にあった。

噴火も終息の兆しが見えた平成6年頃より家屋再建に向けて家族で話し合った。再建するならまず「あの石垣」をと、若い息子たちの強い意見で石垣から取りかかることにした。流失の跡地に埋まっていた石垣を掘り出したが、数が足りず諦めかけていた矢先に、友人の好意で他の石垣を譲って頂いたのは幸運だった。工事に当たっては名工の増永さんが真夏の炎天下でもコツコツと手で削り八ヶ月をかけて、見事な亀の甲積み石垣が完成した。

元々安中地区には殆ど家が石垣堀に囲まれていたが今はそのたたずまいを見る事も出来ない。然しその古里への淋しい思いは誰にでも、心の片隅に残っている。この様な現状の中で、今石垣を復元出来た事は、往事の安中を後世に語り継ぐ材料として、少しでも役に立てば幸いです。

又この地は、昭和の初め秩父が浦公園の開発に努力した祖父たちの思い出の地でもある。永住の地となったのも何かの縁であろう。

そして風致地区の真ん中に位置するので自然を大切に周りの風景をこわさぬ様に植栽にも気を配り乍ら庭作りに努めている。

(91 大場昭生)

「住環境を考えた私の工夫」

住まいは、そこに住む人々のやすらぎと心なごむ憩いの場であり、一家団欒の場所である。家と庭という字で家庭というの、このことから思う。限られた面積、地形の中で将来にわたり飽きがこなく、通気、採光をも念頭においた生活者本意の住環境を考えた。

風致地区内でもあり、特に住居、庭、堀の一体的な組み合わせによる生活空間、周囲と調和のとれた、まち並みを考慮し、生活の場としての雰囲気づくりに配慮したことが、今回評価されたことと思う。

(95 古瀬育洋)

今回まち並景観賞を頂きましたが何だか複雑な気持ちです。

感じの良いまち並にするには必ずしも多額の金を費やして家や塀壁を作らなくても一寸した工夫や心掛けで美しいまちになるのではないのでしょうか？最近家のまわりや道端にプランタン等にきれいな花を置いてあります。大変よい心掛けだとは思いますが、しかしその花が枯れてしまった後がそのままにしてあったり、又プランタンが破れてその土が道ばたにこぼれたりしているのが如何にも見苦しい、後しまつが大切ではないのでしょうか。

又生け垣はまち並景観には大切なものですがあまりにも茂って道路までひどくはみ出して通行にも支障をきたしている所が時々見当たります。お互いに新しいものばかりを考えずに、保護、修復、清掃等の心掛けが大切ではないのでしょうか？

(96 小鉢藤彦)

静かな環境と、昔の香りの残る城内三丁目に、私共は、平屋で目立たぬ建物と願い、料理店をオープンいたしました。開けてみますと、「お店がみつからない」とお叱りを受け看板を突き出す訳にもいかず、灯りを少しふやしました。玄関に向かいますと、別の表情がございまして、納得していただけるようです。これからは緑や花をそえ、より地域にと

け込めるよう努めて参ります。賞をいただき心より感謝と御礼を申し上げます。

(98 会席料理はしもとや 牟田口安信)

由緒ある島原藩時代の武家屋敷がある下の丁に家を建てるについては通りの景観をくずさず近隣との調和、日照の妨害をなくす事を第一に考えました。白亜の殿堂や威風堂々とした構えの二階建てを夢見たこともありましたが、環境との調和を考えてみますと和風の平屋にするのが、最適と考えがまとまりました。

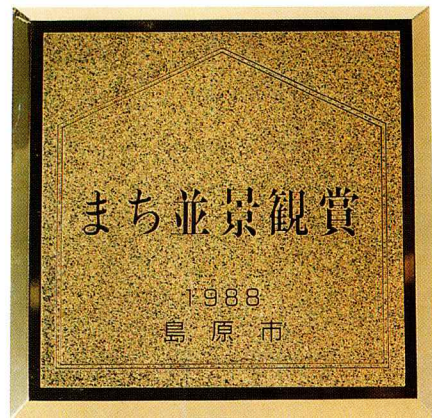
家が建つと庭はつきもので少ない予算でしたが和風の庭を作る事によって一層家の模様が生きてきました。伸びた枝は摘み、竹垣をこしらえて二、三年後の庭木の生長を楽しみにしております。

最後になりましたが、設計・監理の園田修平氏、施工の田浦経晴氏、造園の松本洋一氏の御尽力により完成致しましたことを深く感謝致しております。外観と共に一部老人仕様等の設計変更もございましたが、今は非常に満足しております。受賞に際しては町内御近所の皆様からは大変な祝福をいただきまして非常に嬉しく存じております。

(99 坂口龍彦)

(敬称略)

記念誌を発刊するに当たり、受賞者（施主）の皆様方に受賞してからの感想等を募集しましたところ、多くの声が寄せられましたことに対し厚く御礼申し上げます。
(編集委員会)



1988

島原市まち並景観賞選考に当たって

島原市で島原HOPE計画推進の一環として新しく制定された「島原市まち並景観賞」は、島原らしい優れたまち並景観の形成に寄与していると認められる建築物、工作物等の景観構成要素を表彰することによって、まち並景観に対する市民意識の高揚を図ろうとするものであります。この賞では、まち並景観を構成している要素を建築物に限定せず、幅広い工作物等も対象としています。又新しく作られたものだけでなく、その保全や更新を通して優れたまち並景観への寄与や、物件の大小に拘らず、きめ細かい心遣いや協力に対しても評価の眼を広げようとするものであります。

今回は第1回目の募集にも関わらず、33件の推薦或いは応募があったことは、まち並景観に対する市民の関心が急速に盛り上がりつつある証拠として心強く感じました。

内容としては、やはり建築物が多く、約半数を占めていますが、島原の代表的な景観である石垣塀や生け垣、水路

やポケットパーク、更に屋根の保全等多彩なものでした。

建築物の中には残念ながら島原の景観とはそぐわないと思われるのも見受けられましたが、一方では、路地に沿ったごく狭い用地の植栽が通行する人の心を和ませる。言うなれば「小さなスペースの大きな心遣い」にも遭遇することが出来ました。これこそ「わが家でも水と緑の街づくり」のHOPE計画の主旨を体現したもので、市民一人ひとりの身の回りに対する心遣いの集積がまち並景観をつくり、育てるものだと感じました。

まち並景観賞のほかに特別賞として設けられた保全賞、協力賞、奨励賞は、今後の波及効果を期待したもので、これらに値する景観要素がぞくぞくと生まれることを願ってやみません。

選考委員長 石 野 治



① 景観賞 県立島原高校洗い場

所在地 島原市城内2丁目
所有者 県立島原高校
設計者 島原市
施工者 九州建設株式会社
完成年月日 昭和62年3月20日

道路拡幅に伴い、石垣塀に囲まれた洗い場と水呑み場を整備したもので、水神様と猿田彦をまつり、まち並の一隅にほっと息をつける、島原らしい精神的安らぎの場を提供している。

② 景観賞 中屋商店

所在地 島原市城内1丁目
所有者 中島フミエ
設計者 吉田建築工業
施工者 吉田建築工業
完成年月日 昭和61年2月11日

島原城のお堀に面して新築された店舗で、腰屋根をもった切り妻屋根の比較的大柄な妻面の白い壁は、お堀の大きな外部空間をほど良く対応していて、お堀周辺の重要な景観要素となっている。右側に隣接した長い棟の瓦屋根の建物ともうまく調和している。



③ 景観賞 島原図書館

所在地 島原市城内1丁目
所有者 島原市
設計者 株式会社建築設計研究所
施工者 東栄建設(株)・島原建設(株)
完成年月日 昭和61年3月25日

島原城周辺の景観に合ったデザインを主たるテーマとして行われた設計コンペの最優秀案だけに、島原の景観に合った代表的な建築となっている。大きく葺き下ろした瓦屋根や白い外壁、道路に沿って築かれた石垣塀等のデザインは、周辺の景観に合った図書館として市民に親しまれている。



④ 景観賞 大手門警察官派出所

所在地 島原市城内1丁目
所有者 島原警察署
設計者 長崎県警察本部会計課
設計者 南田口建築設計事務所
施工者 南徳永工務店
完成年月日 昭和61年3月26日

島原の大手門を通り、お城に向かう人々の最初の視線を受け止める位置にあり、お城の櫓を思わせる様式の建築物である。小規模な建物だけに、建築のデザインとしてもまち並みを構成する点景のデザインとしてみるべきで、警察官派出所としての異例のデザインが評価された。





5 保全賞 喫茶 ケルン

所在地 島原市高島2丁目
所有者 山崎孝司
完成年月日 昭和62年12月

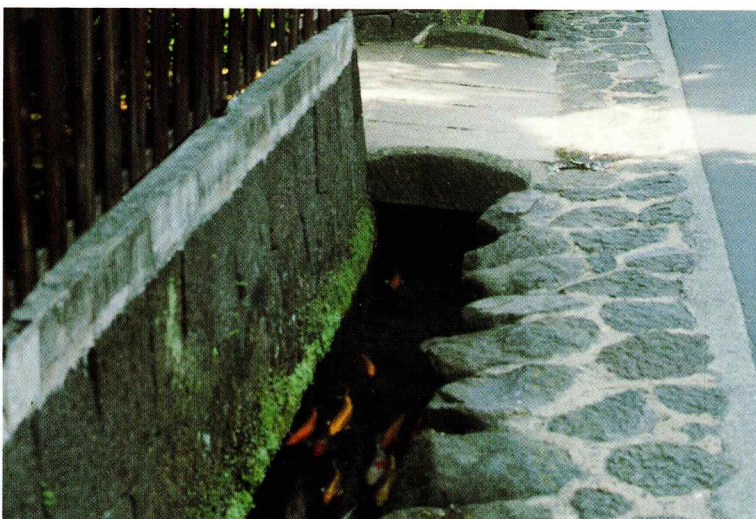
民家を改造した島原のユニークな喫茶店ケルンの装いの中で、重要な要素である瓦屋根を保全するために、漆喰で固めた屋根瓦を修復したものである。



6 保全賞 松尾昭和邸

所在地 島原市中組255
所有者 松尾昭和
完成年月日 昭和62年

島原の代表的町家の瓦屋根を葺き替えたもので、この島原の代表的景観の今後の永い維持保全への大きな一歩が踏み出されたものである。



7 協力賞 鯉の泳ぐ城下町

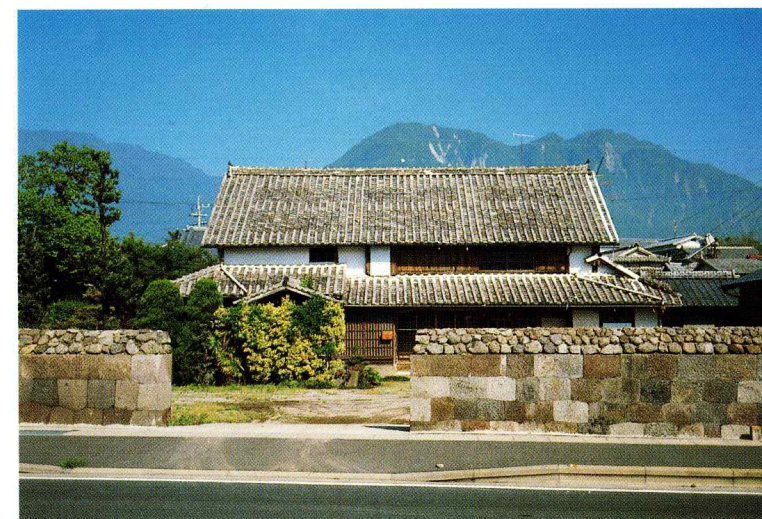
所在地 島原市新町2丁目
所有者 下新町町内会
完成年月日 随時

島原のまち並景観にとって欠くことの出来ない鯉の泳ぐ町は、町自治会の創意と努力によって維持されている。この影に隠されたまち並景観への協力が評価された。

8 協力賞 古瀬順一邸 石堀

所在地 島原市中安徳町丁465
所有者 古瀬順一
施工者 株式会社古瀬組
完成年月日 昭和60年3月

道路拡幅に伴い、長さ約40mに及び、伝承された優れた石積の技術によって積み直されたこの石垣堀は、道路沿いに島原ならではの見事な景観を提供している。



9 奨励賞 清水強邸 植え込み

所在地 島原市上の町865
所有者 清水 強
施工者 南宮本造園
完成年月日 昭和61年10月30日

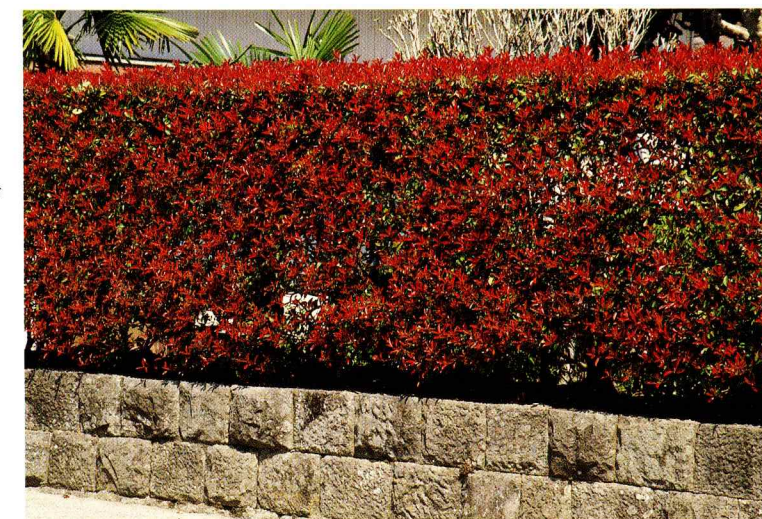
路地に面して狭い用地に植栽を施し通行する人の心をなごませている。「小さなスペースの大きな心遣い」は、奨励賞に値する。

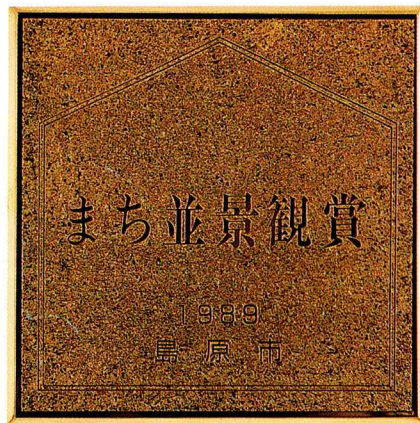


10 奨励賞 喜多 猛邸 生垣

所在地 島原市栄町8632
所有者 喜多 猛
完成年月日 随時

栄町の道路に面して素晴らしい『べにかなめもち』の垣根がある。真赤に色づく季節には通行する人の心をなごませる。永年にわたる丹精のたまものである。





1989

島原市まち並景観賞選考に当たって

島原市まち並景観賞が、昨年に引き続いて、今年度第2回が実施されました。

応募件数は第1回と同じ33件で、完成年度別では63年以降24件、62年5件、61年2件、それ以前の植栽等2件でした。まち並景観賞を毎年実施するに当たっては、市当局及び審査員の中で、応募件数及びその質の確保について、やや懸念があったのは事実でした。しかし審査に当たって現地を見せていただいて、これらの懸念が全くの杞憂であったことを知らされました。応募総数が昨年と同数であったばかりでなく、63年以降完成の物件が全体の7割を越えたことは、昨年度の実績で62年完成のものが応募総数の3割強であったことを勘案すれば、まち並景観に対する市民の関心が急速に盛り上がっていると実感させられました。

更に最終審査の結果決定された景観賞2件、協力賞4件、奨励賞4件の計10件のうち協力賞、奨励賞夫々1件ずつを除いた8件が63年以降の完成であること、更に景観賞をはじめ受賞作品が昨年度に比べて決して見劣りしない優れた

ものであることは、この1年間での景観に対する市民意識の高揚をベースとした景観形成への取り組みの格段の進展を示すものとして高く評価されます。一人ひとりの市民の心遣いが島原の景観をつくるのだという「わが家でも水と緑の街づくり」「小さなスペースの大きな心遣い」がこの1年で更に市民の心深く根付きつつあるのは嬉しいことです。一方特別賞のなかで、主として行政の事業に関連して好ましい景観形成に協力いただいた協力賞、市民や民間の主体的な発意による景観への貢献を顕彰する奨励賞の他に、先人から受け継いだ優れた景観構成要素の保全に対して与えられる保全賞がありますが今回該当者が出なかったのは残念です。次回以降に期待したいと考えます。最後に島原市まち並景観賞が回を追う毎に量的にも質的にも素晴らしいものになることを願ってやみません。

選考委員長 石 野 治



⑪ 景観賞 榊原民具資料館

所在地 島原市城西中の丁1988
所有者 榊原武之
設計者 (株)藤元工務店
施工者 (株)藤元工務店
完成日 昭和63年12月30日

武家屋敷に近く、個人の浄財によって建築された資料館で、永年の収集成果である民具が展示される。存在感のある白漆喰壁の建物が、石堀のまち並に調和し、松丸太の小屋組を露出させた建物の内部空間も素晴らしい。この場合、例えば来訪者は、まち並空間の連続として建築の内部空間を抱え、島原の景観のイメージを膨らませるだろう。

12

景観賞 水頭ポケットパーク

所在地 島原市中堀町51
所有者 水頭自治会
設計者 島原市
施工者 竹内建設(株)・入江建設
完成日 昭和63年3月25日

由緒ある井戸を、まち並のなかのポケットパークとして整備したもの。井戸廻りには島原産の安山岩の切り石が使用されている。狭いスペースであるが、立ち寄って水を口にふくむのは心地良い。土俗的信仰の対象である黒い亀の復元も風俗の継承として人の心をなごませ、単なる三次元の景観空間に温かい人間味を与えてくれる。



13

協力賞 本光寺 庫裡・練り堀

所在地 島原市本光寺町
所有者 宗教法人 本光寺
設計者 (株)安井建築設計事務所
施工者 (有)増崎組・(有)寺中組
完成日 昭和63年5月31日

既存石垣を利用し、上に増設された白漆喰の堀は、広大な境内を取り囲み、地域のランドマークとなっている。車裡の反りを持たない大きな瓦屋根が現代人の共感を誘う。



14

協力賞 安養寺 練り堀

所在地 島原市桜町980
所有者 宗教法人 安養寺
設計者 吉田一級建築事務所
施工者 吉田石材店・本多建塗
完成日 昭和62年8月5日

境内を囲む重厚な石積と白漆喰の堀で、道路拡張に端を発して築造された。その精緻な石積は、島原のメインストリートの一角を占めるのにふさわしい風格を備えている。





15 **協力賞 島原城内時計台**

所在地 島原市城内一丁目
所有者 国際ソロプチミスト島原
設計者 園田建築事務所
施工者 水田住研
完成日 昭和63年9月26日

島原境内城場に民間団体の寄贈により建立されたもので、この種の構造物にありがちな奇態な印象を与えず、瓦葺の屋根と板張りの腰をもった姿は、周辺環境に溶け込んでいる。



16 **協力賞 武家屋敷通り石垣塀**

所在地 島原市下丁
協力者 武家屋敷 保勝会
設計者 島原市
施工者 (南)寺中組
完成日 昭和63年2月

島原の景観を代表する下の丁の武家屋敷通り面し、ブロック塀を石垣に積み直したもので、石垣の連続した景観を取り戻したもので、市の景観行政への協力が評価された。



17 **奨励賞 富永忠夫邸 茶室**

所在地 島原市下新丁2416
所有者 富永忠夫
設計者 森山建設
施工者 森山建設
完成日 昭和63年9月30日

道路に面した門の木製格子戸は幅が広く全開できる。門から玄関にいたるアプローチに仕つらえた庭園と、正面に見える茶室の美しい姿が、通行する市民に開放されている。

18 **奨励賞 吉田近達邸**

所在地 島原市上新三丁目2602
所有者 吉田近達
設計者 株藤元工務店
施工者 株藤元工務店
完成日 昭和63年11月30日

石垣の続いているまち並に、景観の連続感を大切に石垣と木の門を新築したもので、下屋をもった瓦葺のおとなしい家屋とともに、島原らしい景観をつくっている。



19 **奨励賞 親和銀行駐車場内庭園**

所在地 島原市桜町977
所有者 親和銀行 島原支店
設計者 佐原工務店
施工者 美緑園
完成日 昭和63年12月

駐車場の道路に面した一部を、水をあしらった和風庭園としたもので、駐車台数の増加を犠牲にして、市民のアメニティと景観への配慮を優先した心遣いが評価される。

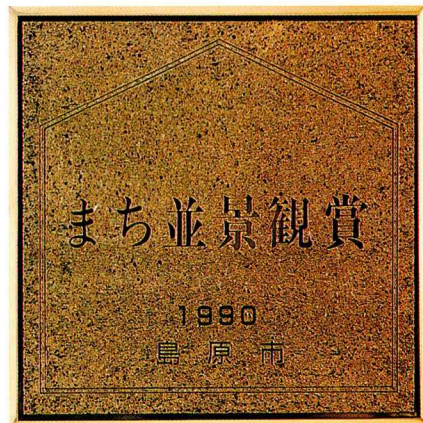


20 **奨励賞 柴田実邸**

所在地 島原市雲南一丁目59
所有者 柴田実
設計者 (南)宮本造園
施工者 (南)宮本造園
完成日 昭和61年12月10日

道路の角地に位置する敷地で、玄関に至るアプローチを道路から後退させ、植栽を配した前庭は、道行く人の心をなごませる。





1990

島原市まち並景観賞選考に当たって

平成元年度島原市まち並景観賞が昨年にひきつづき実施されました。今回は第3回に当たりますが、応募件数は33件で、前回及び前々回と全く同じでした。毎年行われるまち並景観賞の募集に、継続してこれだけの応募件数があったことは、それだけでもまち並景観に対する市民の高い意識の拡がりを感じられて喜ばしい限りです。

今回最終的に表彰が決定された作品は、まち並景観賞が3件、奨励賞3件、協力賞2件、保全賞2件の計10件でした。まち並景観賞が前回より1件多く、前回該当作品がなかった保全賞が2件選ばれたことが今回の特筆すべき選考結果です。まち並景観賞受賞作品の増加は、島原のまち並景観形成に大きなインパクトを与える建物が、この1年間に集中的に実現したことを物語っています。又、保全賞2件は、島原のかけがえのない伝統的まち並景観の保全と整備が着実に行われていることの証左であります。

これまでの2回のまち並景観賞が、受賞地周辺は勿論、

全市域に及ぼした「景観づくりは市民の手で」という意識づくりの波及効果は著しく、今回の受賞作品もこの様な波及効果を生む核として、夫々の地区地域に合った景観づくりに貢献されるものと期待されます。しかし私は更に一步を進めて、点から線に発展した意識的景観づくりが現在の島原の新しい緊急課題として急速に浮かび上がっていることを痛感しております。一つには島原駅の竣工に伴う、駅からお城へのメインアクセス道路のまち並整備で、いま一つは大手川改修並びに大手川に平行する県道拡幅に伴う景観整備であります。その一つ一つが当事者にとっては生死をかけた大事業であります、この大事業遂行のなかで、その他の地区地域での景観整備と相たづさえて、明るく住みよい、島原らしい魅力ある町づくりの一步一步を築いてゆかれることを心底より期待しております。

選考委員長 石 野 治



21 景観賞 北田邸と店舗

所在地 島原市亀の甲町乙1650-4
所有者 北田幹二
設計者 インテリアBOX 寺田建築設計事務所
施工者 田浦建築工業
完成日 平成元年9月10日

国道251号線に面し、道路と平行な横一線の配置をもった店舗と住宅である。建物を国道から充分後退させ、又道路に沿って立面を長く見せる配置計画は、速いスピードで移動する車からの視線への対応として、うまい計画である。住宅は片側に葺おろした妻面を見せ、店舗は下屋をもった軒側を見せているが、民家風の外観は、市の中心部からやや離れた地域の国道沿い景観として優れた提案である。

22

景観賞 島原鉄道島原駅舎

所在地 島原市片町586-1
所有者 島原鉄道(株)
設計者 中村建築事務所
施工者 (株)米田建設
完成日 平成元年11月30日

コンコースを出ると、駅前広場と道路とを通して島原城天守閣を見通せる位置に、大手門風の島原駅舎が竣工した。市民の大きな関心と呼んだこの駅舎は、島原利用者だけではなく、国道からの来訪者に対しても、城下町島原を強く印象づけ、心理的に島原城の大手門というにふさわしい堂々たる構えを見せている。安山岩の石積、白壁、瓦、鉄鋸を打ち込んだ木材等が建物の重厚さをつくり出している。



23

景観賞 姫松屋

所在地 島原市城内一丁目1208-3
所有者 (有)姫松屋
設計者 吉田一級建築事務所
施工者 (有)徳永工務店
完成日 平成元年9月19日

島原城のお堀に沿って進むと道路の正面に見える瓦葺白壁の建物で、入母屋屋根の妻側を正面に見せた堂々たる外観であるが、一階下屋部分の瓦の軒先線が親しみのある人間的スケールを感じさせる。建物前面の適当な道路からの引きと、そこに建てられた和風看板のデザインもなかなかのもの。グルメ指向の強まりのなかで、お堀周辺に新しい景観資源がまた一つ生まれたと言える。



24

奨励賞 原口 周邸

所在地 島原市白山町83
所有者 原口 周
設計者 (株)東建築設計長崎研究所
施工者 (株)米田建設
完成日 平成元年4月25日

道路からやや奥まった住宅の主屋だけでなく、道路に面した塀や車庫に至るまで、白い壁と品のよい日本瓦で統一され、全体に調和のとれた落ち着いた雰囲気をつくっている。車庫、住宅の平屋部分、二階部分とつながる寄せ棟屋根の連続感は心地よい。



25

奨励賞 ホテル住吉館

所在地 島原市中町548
 所有者 ㈲住吉館
 設計者 園田建築事務所
 施工者 水田住研
 完成日 平成元年12月10日

市の中心部に建つサービス施設である。新しい材料で現代的な寄せ棟屋根をかけ、外装を派手にならない落ち着いたトーンにまとめ、一方で現代的なディテールで要所をひき締めるというデザイン手法は、島原の景観の中でこの種の建物のあり方に一つの示唆を与えている。



26

奨励賞 渡邊邸

所在地 島原市古丁2346-4
 所有者 渡邊秀孝
 設計者 園田建築事務所
 施工者 宅島建設㈱
 完成日 平成元年1月31日

武家屋敷近くの閑静な住宅地に建つ日本瓦葺、真壁風住宅である。門や堀に使われているステイン塗の木材は、主家の化粧柱や梁と同じ仕上げで、全体に和風木造の統一された様式となっている。門やカーポートに使われている縦格子の木製引戸は、敷地の道路への解放感に役立っている。



28

保全賞 賀山崎本店酒造場

所在地 島原市白土町1065
 所有者 山崎重裕
 設計者 ㈱米田建設
 施工者 ㈱米田建設
 完成日 平成元年10月

伝統的なまち並の風情豊かな白土町の町家の改装である。視覚によっては真白く見える下屋の漆喰でかためた瓦屋根や、造り酒屋のシンボルとして新しく設けられた杉玉のサイン等、伝統的なまち並景観に新鮮な息吹を導入している。



29

協力賞 島田菓子店

所在地 島原市中町809-2
 所有者 島田慶一
 設計者 田中建築設計事務所
 施工者 島田内装表具
 完成日 平成元年4月

島鉄島原駅と島原城を結ぶ道路は、天守閣を望む島原市内でも景観上最も重要な道路の一つである。島原駅舎の竣工によって、この道路沿いの景観整備は一層緊急な課題となっているが、日本瓦と白壁、そして木材を素材としたデザインは今後の参考となる提案であろう。



27

保全賞 宮崎邸石垣練り堀

所在地 島原市城内一丁目1188
 所有者 宮崎六夫
 設計者 星野建設㈱
 施工者 星野建設㈱
 完成日 平成元年11月

島原城のお堀端道路に面した安山岩亀甲積の石垣を残し、その上に白漆喰の壁と日本瓦とを乗せたもので、お堀端の景観保全の意味は大きい。又敷地内の建物、特に堀に接して建っている建物と堀との取り合いは、島原らしい風情で大変面白い。



30

協力賞 西堀端身障者便所

所在地 島原市城内一丁目1211-4
 所有者 島原市
 設計者 島原市
 施工者 九州建設㈱
 完成日 平成元年3月

島原城お堀端の広場に建つ身障者も利用できる便所で、背面道路側には安山岩の石垣を、左右には低木の植栽、前面には水の流れを配し、島原城周辺の景観作りへの配慮がうかがえる。福祉と景観のまちづくりの一例である。





1991

島原市まち並景観賞選考に当たって

平成2年度島原市まち並景観賞の選考委員会が開かれました。

この賞が制定されて今回は第4回になります。

景観賞が回を重ねる毎に島原市にふさわしいまち並景観の整備が進み、受賞対象となった作品のストックが、毎年10点のテンポで増えて行くのは、この賞の選考にかかわってきた委員全員の大きな慶びであります。又、惜しくも受賞の選考にもれた応募作品も、それぞれまち並景観への配慮を念頭においた推奨すべき作品ばかりで、今回を加えれば応募件数143件に及んだという実績は、「まち並景観賞」制定の意義が市民の間に深く定着しつつある証左であります。

昨今“景観”に対する関心の高揚は全国的な規模で急速な進行を見せており、長崎県下でも各地で、又、各分野で真剣な取り組みがなされております。このような中で島原市の“まち並景観賞”の制度は特筆すべき先進例でありま

して、私も事あるごとに喧伝いたしておりますが、長崎市の“都市景観建築賞”を除いて、他の市や町ではなかなか誕生しないのであります。島原市に景観賞制度が発足し、又無理のないごく自然な日常感覚で市民の協力を得て、回を重ねていることは、私は島原市民は島原市民のもつ伝統的な素晴らしい土壌、或は気風を強く感じるものであります。

それは一言で言えば“わが家でも水と緑の街づくり”の精神でありましょう。

今回は第5回の一つの節目にさしかかります。“島原市まち並景観賞”のますますの盛り上がりを期待いたします。最後に今回受賞された景観賞2点、保全賞1点、奨励賞3点、協力賞4点の関係者の皆様に心よりの敬意と祝意を申し上げる次第であります。

選考委員長 石 野 治



31 景観賞 医療法人中村眼科医院前ポケットパーク

所在地 島原市中町829
所有者 医療法人 中村眼科医院
設計者 南相和設計
施工者 清水建設株式会社長崎営業所
完成日 平成3年1月

医院の改築を機に、駐車場として使われていたスペースを近代的な中庭として整備されたもので、街路からのポケットパークとしての積極的な機能を併せもっている。

中央に植えられた樹を中心に水と緑を配し、ベンチや石のオブジェを配置した近代的な空間が、大きな透明ガラスを持つ待合室から眺められると共に、街路を通行する人々にとっても優れた潤いのある場となっている。

32 景観賞 白土湖緑道公園

所在地 島原市上の原二丁目
所有者 島原市
設計者 島原市
施工者 吉岡組
完成日 平成2年12月25日

白土湖の西側隣接地に整備された、水面をもつ緑道公園で、自然木を使用した橋やあづまや、ベンチ等は訪れる人々を優しく迎える。

湧水を利用したこじんまりとした清澄な親水空間は、比較的規模の大きな都市的空間の白土湖周辺に、市民にとって親しみのあるヒューマンな空間を与えている。民間企業の施設建設予定地を市民のために公共化した市当局の姿勢と努力に敬意を表したい。



33 保全賞 島崎徳雄邸

所在地 島原市新町二丁目245
所有者 島崎徳雄
設計者 ㈱米田建設
施工者 ㈱米田建設
完成日 平成2年6月30日

「鯉の泳ぐ町」の一角を占める民家の改装で、屋根の日本瓦、壁の白シッキイ、腰の平瓦張、木製の窓格子等、まち並に島原にふさわしい装いをもたらした。

低くおさえられたヒューマンスケールの軒先が、道行く人々に落ち着きと、優しさを感じさせる。



34 奨励賞 ㈱九電工社宅

所在地 島原市城西中の丁2096
所有者 ㈱九電工
設計者 星野建設㈱
施工者 星野建設㈱
完成日 平成3年1月10日

既設石塀を保存して、上部を白壁瓦葺とし、木製格子戸のある和風の門を設置したもので、格子越しに見える玄関アプローチの静かな風情や、主屋の瓦葺の屋根やじゅう色の外壁、宅地内の植栽等、付近のまち並に合って、好ましい景観と成っている。

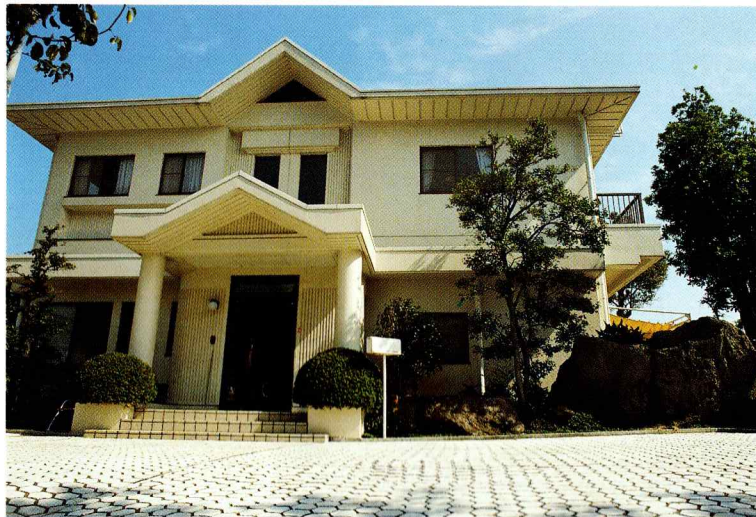




35 奨励賞 生田米穀店

所在地 島原市今川町1857
所有者 生田 孝
設計者 増崎工務店
施工者 増崎工務店
完成日 昭和63年12月1日

大手川に平行する県道に面した建物で、県道拡幅に伴い改築された。一部下屋をもった切妻の建物外観、日本下見板を張った外壁仕上等、ごく平凡ではあるが、自然体とでも言うべき建物形態が、人々に一種のなつかしさを感ぜさせる。レトロ調の看板もほほえましい。



36 奨励賞 藤原弘子邸

所在地 島原市北安徳町丁978-72
所有者 藤原弘子
設計者 吉田一級建築士事務所
施工者 坪田組
完成日 昭和63年8月

島原市の南部、秩父が浦風致地区に立てられた住宅で、周辺の風景も伝統的な島原のまち並とは違ったリゾート風の景観を呈している。

海に面した敷地に建つ南国ムードの白く明るい外観が、島原の景観として、これまでと違った新しい一面を見せてくれる。



37 協力賞 吉田日出夫邸

所在地 島原市下の丁2004-1、2005
所有者 吉田日出夫
設計者 出口一級建築士事務所
施工者 昭和技建工業
完成日 平成2年10月15日

武家屋敷のまち角に建つ住宅で、二屋敷をつなげて築かれた瓦葺の白シックイ堀は、対面する島原第一中学校の新しい白堀と呼応して、統一感のあるまち並みの形成に一役かっている。

白堀のコーナーに置かれた道祖神は訪れる観光客の安全を守っているようにも見える。

38 協力賞 第一中学校堀及び門

所在地 島原市城内一丁目
所有者 島原市
設計者 島原市
施工者 (株)九州建設
完成日 平成2年9月

武家屋敷に近い島原第一中学校の道路ぞいの堀を石積みの腰、白シックイ壁、日本瓦葺に築き上げたもので、太い木材を使用した門柱や、重量感のある木製扉も迫力がある。

景観への寄与のみでなく、ここに学ぶ子供達に対する教育効果も又、大きいものと期待される。



39 協力賞 島原商業高校グラウンド堀

所在地 島原市城内一丁目
所有者 長崎県
設計者 長崎県立島原商業高校
施工者 宮崎工業
完成日 平成2年7月14日

島原城のお堀に近く、高校グラウンドの露出したブロック堀を、瓦葺き白シックイ堀に装い替えし、道路との三角地帯をポケットパークとしてベンチを配し、植栽をしている既存のまち並要素との調和を図っている。周辺に合ったまち並みの見直し改善する努力の蓄積が、まちを美しくしてゆく好例である。

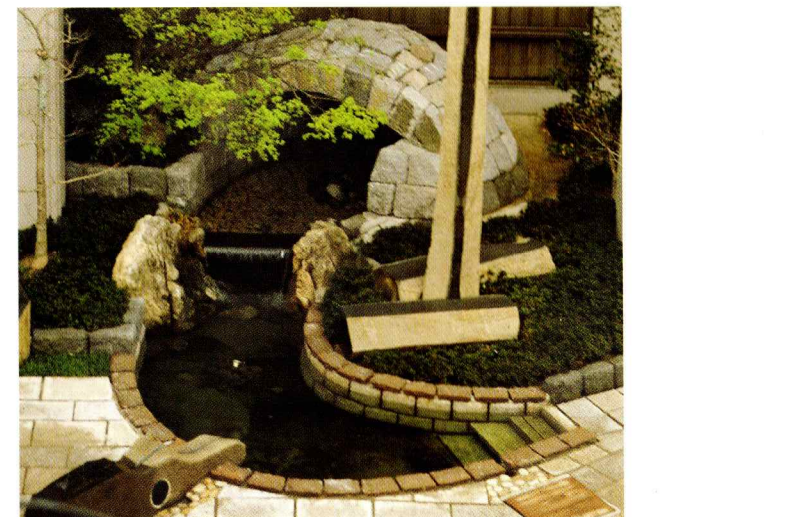


40 協力賞 商工会議所前・商工の泉

所在地 島原市高島二丁目
所有者 島原商工会議所
設計者 (有)宮本造園
施工者 (有)宮本造園
完成日 平成2年2月

島原市の中心地で、交通量のはげしい国道の角地に設けられた和風庭園である。緑と水を取り入れ、自然石や肥前六方石を扱った多彩な造形要素をあしらっている。

国道のはげしい車の流れの中で、ふと静寂に会った気のする都市の一すみである。





1993

島原市まち並景観賞選考に当たって

まち並景観賞は、雲仙普賢岳噴火災害のため昨年度は残念ながら中止しました。復興への槌音とともに今年度は復活し、5回目を迎えることになりました。平成3年6月3日の大火砕流惨事以降、島原市では建築活動は手控えられ、建築確認申請件数でも、この2年間、以前の年間400余件から200数十件と半分近くに減少しています。こうした状況にもかかわらず、今回31件とこれまで4回と変わらぬ応募・推薦があったことは、市民の復興への熱意と景観への理解の深さの現れだと思います。

応募・推薦作品の分布は、森岳、霊南などを中心に安中から三会まで島原市全域にわたっています。避難を止む無くされた安中からの応募は、故郷に住み続けたいとの強い意志が伝わってきました。また、大手川改修と県道拡幅にかかわって、点から線への景観形成の重要性和意識的な取り組みをかねてより訴えてきましたが、今回のこの地区からの応募作品の数々は、そのことに十分応えるものでした。

選考の結果、景観賞2件、奨励賞4件、協力賞4件の計10件を表彰することとしました。保全賞は、今回該当作がありませんでした。景観賞は2件とも住宅となりました。まち並景観に大きな影響を与える大規模建築物の応募も数件ありましたが、立地の読み取りやその規模にふさわしい

デザインの成熟などに不満を残しました。協力賞は、先に述べました線的な景観形成につながるような大手川改修・県道拡幅による建替えの事例となりました。奨励賞は、国道沿の景観や沿道環境への貢献のあり方への提案を含んだものがありました。

森岳を中心とした城下町に似合う景観イメージや農村地帯の石塀に囲まれた景観イメージは、このまち並景観賞受賞作品によってかなり形成されてきたように思われます。しかし、島原港や海岸線あるいは国道沿などは、斬新なデザインと景観形成で新しい島原の景観創造を期待したいところです。すばらしい島原の景観を支えている建物や石塀、植栽などの保全・活用も大いに注目していきたいところです。

島原市復興基本構想が策定され、基本計画が検討されていますが、その中でも「わが家でも水と緑の街づくり」という島原の地域特性に根差したまちづくりが重視されています。市民のみなさんの手による魅力あふれるいえ・まちづくりが力強く進み、以前に倍する復興を成し遂げられることを心より願っています。

選考委員長 石 野 治



41 景観賞 三原 保 邸

所在地 島原市亀の甲町乙1688
所有者 三原 保
設計者 園田建築事務所
施工者 宅島建設様
完成日 平成4年5月

敷地は国道251号線と島鉄との間にはさまれた亀の甲町のせまい道路に面している。亀の甲町の名にふさわしい石積の古い擁壁をもつ屋敷である。敷地が道路より高いせいもあって、道路から建物の全景を見ることは困難であるが、門のたたづまい、格子戸からうかがえる玄関へのアプローチなどのしつらえは一級品である。古い棟をうまく取り込んだ新築部分は落ちついた本格的和風の風格をただよわせている。

42 景観賞 田島正也 邸

所在地 島原市霊南一丁目3334
所有者 田島正也
設計者 南前田組
施工者 南前田組
完成日 平成4年9月

敷地は南風楼の正門前に位置し、正門と正対する建物の東側部分では二階を道路境界から後退させ、あまり広くないホテル前の道路に空間的な余裕をつくり出している。小瓦をのせた堀、格子戸の入った門、車庫の位置等も周辺の景観への配慮が感じられる。建物の設計は、てらいのない和風にまとめられていて好感がもてる。門の格子戸からうかがえる玄関へのアプローチもすかすがしい。



43 奨励賞 園田敏信 邸

所在地 島原市大下町丙1025
所有者 園田敏信
設計者 三栄設計
施工者 園田満則建築
完成日 平成4年12月

国道57号に面し、敷地の奥の部分に倉庫が、道路に面して住宅が建てられている。住宅は日本瓦の屋根組と、じゅうく色の外壁が目目をひく。奥まった倉庫の白壁も美しい。普賢岳の噴火災害の中で、この地域に建てられたこの建物は、島原の人達に復興、建設への勇気を与えてくれるだろう。



44 奨励賞 杉村陽平 邸

所在地 島原市弁天町一丁目94
所有者 杉村陽平
設計者 田中建築設計事務所
施工者 南平成建設
完成日 平成4年1月

中央公園の近く、市道に面して何のてらいもなく建てられている白壁土造風のこの建物は、思いきり簡潔且大胆なデザインでまとめられ、一方建物の足元に湧水の流れをつくるなど、街並へのやさしい配慮が感じられる。

交通量の多い道路添いの住宅の景観として、一つの提案である。





45 **奨励賞 朝日生命島原ビル**

所在地 島原市高島町一丁目402-30
所有者 朝日生命
設計者 清水建設(株)九州支店
施工者 清水建設・米田建設JV
完成日 平成4年11月

島原市の中心部、特に国道添いの景観をどう考えるかは議論のあるところである。所謂島原らしさに安易に迎合するのではなく、質の高い近代性と、人間へのやさしさを兼ねそなえたデザインも一つの望まれる方向である。この建物は一歩その方向に踏み出したものと言える。



46 **奨励賞 九州電力(株)島原営業所**

所在地 島原市城内一丁目1207-1
所有者 九州電力(株)
設計者 九州電力(株)長崎支店 土木建築課
施工者 金子建設(株)・(株)芦塚工務店JV
完成日 平成3年3月

島原城の南側、官公庁の建ちならぶ堀端の道路正面に位置する。この建物は立地条件から、周辺景観への配慮についての市当局からの要請に応じて設計されている。屋根を勾配屋根とし、道路側一階を下屋にしたこと、堀端道路から見て三階を左側に寄せ、姫松屋との間に空間をあけたこと等が評価される。



47 **協力賞 福島保悦邸**

所在地 島原市高島一丁目422
所有者 福島保悦
設計者 田中建築設計事務所
施工者 島田内装表具
完成日 平成3年3月

現在島原市内で進められている大手川拡幅、改修工事に伴い、市で提案されている景観整備マニュアルを受けて建てられた住宅で、白壁、日本瓦屋根を主体としたデザインである。川と反対側の道路からの外観は美しく、大手川側の外観も形の単純化があれば一層引き立ったのではないかとと思われる。

48 **協力賞 磯野定道邸**

所在地 島原市上の町927-2
所有者 磯野定道
設計者 (有)入江工務店一級建築士事務所
施工者 (有)入江工務店
完成日 平成3年7月

福島邸と同じく、拡幅、改修後の大手川の北側に位置する住宅である。白壁と日本瓦をあしらった建物で、改修後の大手川からの景観を考慮してデザインされていて、今後周辺建物の整備にあたっての景観形成のパイロット的な役割を十分果たすものと期待される。



49 **協力賞 ガレージ食堂**

所在地 島原市今川町1305
所有者 馬場カツエ
設計者 三栄設計
施工者 井上住建
完成日 平成4年4月

島原市庁舎前から西にのびる県道拡幅事業に伴う沿線のまち並景観の整備は、今や市民にとっても大きな関心事である。道路に面した食堂部分は、日本瓦の切妻屋根の平屋で、何のけれども味もなく素直にまとめられ、周辺のまち並景観への協調の姿勢が感じられ好感がもてる。



50 **協力賞 田浦政雄邸**

所在地 島原市今川町1307-1
所有者 田浦政雄
設計者 江川一級設計事務所
施工者 山口一昭
完成日 平成4年8月

ガレージ食堂同様、県道拡幅に伴って建て替えられた建物で、日本下見板張りの外壁をもった外観は、91年度奨励賞受賞の米穀店と似た印象をもつ。同じ材料、同じ工法の建物を街なみの中で再現することは、材料、工法の多様化が極端に進んでいる現代、むしろ景観形成上大切なことだと考える。





1994

島原市まち並景観賞の選考を終えて

普賢岳噴火災害により、一昨年中止されたまち並景観賞が昨年は復活され、心配され応募件数も31件と、これまでと殆ど変わらない状況で、市民の復興の熱意と景観への理解の深さの現われとして、関係者を安堵させ喜ばせたものでした。昨年に引き続いて行われた今年のまち並景観賞は、応募件数がこれまでの平均件数の1.5倍以上に当たる53件に達しました。その内訳は専用住宅20、借上復興住宅17、店舗併用住宅3、店舗・事務所10、寺社・工作物3件です。借上復興住宅は、民間建設の住宅を一定期間、県が借上げ、普賢岳噴火被災者への住宅供給の一環としようとするもので、建物及び外構について一定の質的水準確保を条件としております。今回借上げ住宅の景観賞応募が17件にのぼった事は、民間建設の賃貸住宅として、かなりの水準のものが建設された証左であり、普賢岳噴火災害に対する住宅面での民間、行政二者の協力による腰を据えた取り組みの成果だと考えられます。

大手川改修と県道拡幅を期に、島原市の景観形成につい

ての意識的取り組みをとの訴えに呼応して、昨年度はこれらの事業に係わって4件の協力賞が生まれ、市民のまち並景観への意識の高揚を実感しましたが、今年度も景観賞1件、協力賞1件の受賞が決定しました。来年度も、これらの事業の進行と平行したまちづくりの中で、受賞作品が後に続き、文字通り点から線へ、更に線から面へと広がる島原市の景観づくりの効果的で強力な進行役になっていただくことを期待します。

今回のまち並景観賞の選考を通して、終息予測の立たない災害の中の、まちづくりが如何に大変であるかを再認識し、その中で島原の地域に根ざしたまちづくりを目指す市民と行政との一体となった挑戦を、心強く、ひしひしと身を感じました。今後共、災害の中での島原にふさわしいまちづくりが、力強く進むことを心より願っております。

選考委員長 石 野 治



51 景観賞 県教職員住宅

所在地 島原市城内二丁目1038
所有者 公立学校共済組合
設計者 (株)小西忠徳設計事務所
施工者 九州建設(株)
完成日 平成3年3月20日

安山岩積み石垣の切れめから敷地に入ると、正面に高木を囲んで円形の供待ちがあり、その先の鍵の手に折れ曲がった回廊が道路側住宅から敷地奥に建つ住宅へと誘導する。建物の内外空間の中間領域を形成するこの外部回廊は、住棟とまち並を融合させる役割も果たしている。鉄筋コンクリートながら2階建てに押さえたこと、日本瓦葺の切妻屋根、切妻側外壁面の軒庇や換気孔、窓、手摺のディテールなど、細部に気を配ったデザインが静かなまち並に違和感なく融け込んでいる。

52 景観賞 いけす割烹 花みずき

所在地 島原市中町548番地
所有者 (有)住吉館/宅島寿晴
設計者 (有)園田建築事務所
施工者 建物：宅島建設(株)
造園：(有)宮本造園
完成日 平成5年12月15日

1990年度奨励賞受賞のホテルの西側に新しく建てられた和風飲食店である。5階建ホテルとの相関関係に設計者の苦勞が偲ばれるが、和風・洋風を越えた共通のデザイン感覚や手法によって、見る人に違和感を感じさせない。駐車場にも使われている舗床された前面広場をホテルと共有することで、市役所周辺のまち並空間に奥行きと豊かさを創り出している。

切妻側の白い外壁、日本瓦葺の下屋、花みずきを交えた植栽など、和風の持つ柔らかさ、優しさを見る人に感じさせる。



53 景観賞 藤田屋チェリー豆店

所在地 島原市今川町1850-8
所有者 (有)藤田屋本家/藤田昌之
設計者 (有)園田建築事務所
施工者 宅島建設(株)
完成日 平成5年1月31日

敷地は、大手川改修に伴う代替地で、拡幅のすすむ県道に面している。大手広場近く、市内の景観重点地域と言える。

建物は日本瓦葺、白い外壁で道路に向かって切妻を見せている。

道路に面して間口を切りつめた建物配置は、商店建築としてはめずらしいが、平屋建であることと合わせて、ヒューマンスケールであることによって親しさ、可愛らしさを感じさせる。

白い切妻壁と黒いタイルの腰廻り、スペースは小さくとも品の良い建物周辺の植栽、出窓風の瓦をのせたショーウィンドー等島原銘菓の店舗にふさわしい風情である。



54 奨励賞 山本 富 治 邸

所在地 島原市湊町285
所有者 山本富治
設計者 (有)園田建築事務所
施工者 米田建設(株)
完成日 平成4年12月20日

湊町の高台に建つ木造2階建住宅で、島鉄の線路を渡って坂を上ると前方に敷地内の桜の木立越しに、周囲の樹木と調和した住宅が見える。

比較的質素な造りの日本瓦葺切妻屋根、真壁造の住宅であるが、敷地内の楠の大木を残し、木製車庫を採用するなど、住まいの手の自然への愛着を感じさせる。





56 奨励賞 グリーンハイツ

所在地 島原市下川尻町7971-11
所有者 宅島寿晴
設計者 (有)園田建築事務所
施工者 宅島建設(株)
完成日 平成5年12月15日

普賢岳噴火被災者のための県借り上げの共同住宅である。民間の建設になるものであるが、最近の公営住宅団地の外構計画など優れた手法をとり入れ設計されている。

比較的大い敷地に2階建2棟をL字型に配置し、建物周辺には神経の行きとどいた植栽が施されている。



56 奨励賞 御菓子司 永昇堂

所在地 島原市白土桃山2丁目1159
所有者 永木 昇
施工者 珠林組
完成日 平成5年12月1日

島原の名所の一つ、浜の川湧水に近く、道路角地に建つ和菓子の店舗。

外観はじゅらく色の真壁とステインされた木部で構成されている。和瓦をのせた1階軒と2階窓の庇、窓のれんじ格子、腰の羽目板、出入口の木製建具とショーケース等、この地域にふさわしい外観と雰囲気をもった建物である。



57 奨励賞 川口吉郎邸

所在地 島原市弁天町7343-2
所有者 川口吉郎
設計者 (有)園田建築事務所
施工者 吉田工務店
完成日 平成5年3月25日

霊丘公園の中に建てられた重厚な感じの木造2階建住宅である。

木造であるが、屋根の破風や出窓の枠の巾を厚くすることで重厚さを表現し、白い外壁の仕上げと相まって、お城のイメージにつながるデザインを意図している。

建物背後の森の緑と建の白い色との対比が美しい。

58 協力賞 南高産業株式会社

所在地 島原市今川町1299
所有者 株南高産業/山下隆司
設計者 株浜崎建築設計事務所
施工者 宅島建設(株)
完成日 平成5年1月10日

拡幅された県道の今川町交差点の角地に建つ。建物をL字型に配置し、敷地内に広場を設けることによって、道路交差点に面する空間に奥行きと余裕を与えている。屋根を切妻日本瓦葺とし、外壁をグレーの落ちついた色彩にまとめている。

敷地内広場のコーナーに植えられていた高木が枯れたのは惜しまれる。

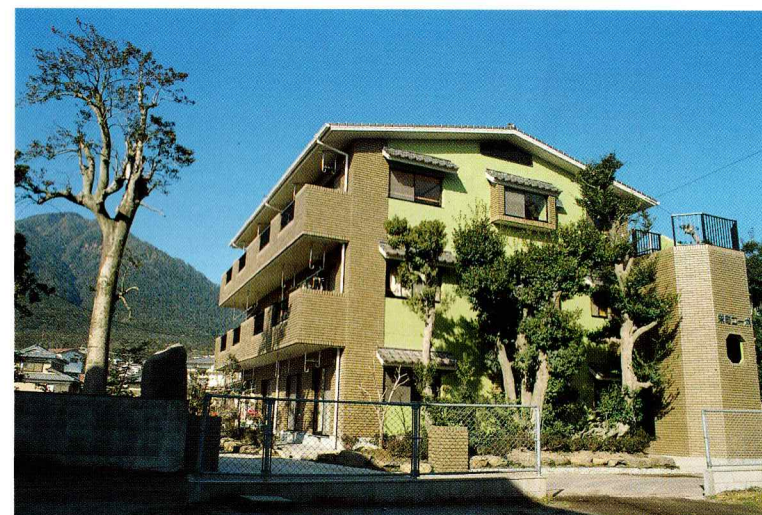


59 協力賞 栄町コーポ

所在地 島原市栄町8622-4
所有者 上田俊春
設計者 田中建築設計事務所
施工者 長崎県南部建設業共同組合
完成日 平成5年8月31日

普賢岳噴火被災者のための県借り上げ共同住宅で、鉄筋コンクリート3階建である。敷地へのアプローチ道路には、隣接地と連続して山桃の古木による立派な並木が形成されている。

建物は階段室を除いて道路から奥に引いて配置され、道路との間に残された山桃の古木群が建物を引き立てている。

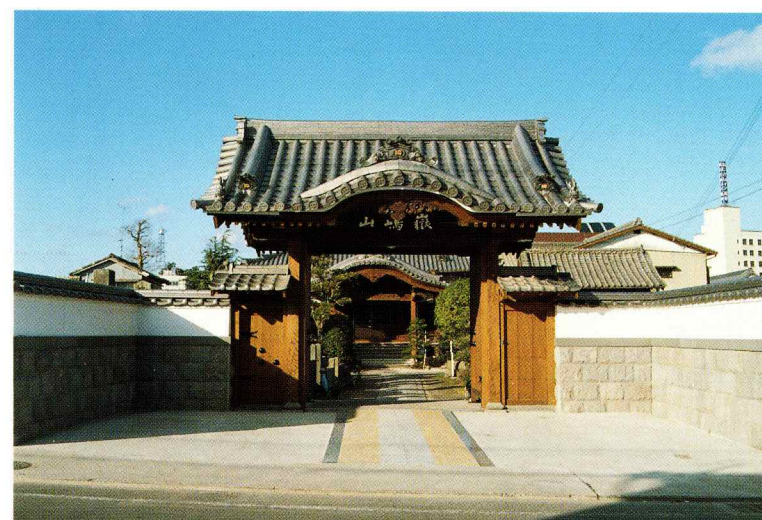


60 協力賞 崇台寺山門及び石垣塀

所在地 島原市萩原町二丁目1224
所有者 崇台寺/安藤光宣
設計者 山門：藤元工務店
施工者 山門：藤元工務店
塀：本多建装
石垣：吉田石材
完成日 平成5年12月20日

崇台寺は、1989年度協力賞受賞の安養寺に対面している。

この地域には快光院、浄源寺もあり、寺町と呼ぶにはふさわしい地域を構成しており、今回の石垣塀の整備や、寺の顔とも言える山門の改修によって、この地域の特色を一段と鮮明にすることになった。





1995

島原市まち並景観賞の選考を終えて

雲仙普賢岳の火山活動が依然終息予測の立たない中で、今回のまち並景観賞の募集が行われました。昨年の選考総評で、応募件数がこれまで5回の平均応募件数の1.5倍に当る53件に達したと書きましたが、今回は、更に増えて60件の応募がありました。長崎県島原振興局の調べでは、島原市内の建築確認申請件数が平成5年（1月～12月）の409件に対し平成6年（1月～12月）は423件となっており、市民、行政二者の努力により復興が確実に進捗していることをうかがわせてくれます。一方今回の景観賞応募件数が建築確認申請件数の約14.2%に達していることは、島原市の復興がまち並景観の形成を念頭に入れながら確実に前進していることを示すもので、まち並景観賞の選考に関わる者として誠に心強く感ずる次第であります。その意味で、今回受賞された10件以外の50件にのぼる応募作品は、今回たまたま受賞に至らなかったとは言え、夫々島原市の貴重なまち並景観形成要素としての役割を充分果たしていただいていると考えております。

今回応募作品の内訳は専用住宅34件（56.7%）店舗・事務所18件（30.0%）社寺・工作物他8件（13.3%）で、その内受賞作品は、景観賞として住宅1件、店舗・事務所2件で、協力賞・奨励賞・保全賞では住宅5件・店舗・事務所2件となっております。

又、災害復興事業として計画、建設された船泊団地から今回6件の応募がありました。この団地では即には可成りの住宅建設が進行し喜ばしい限りですが、団地の景観形成についてのイメージは未だ明確になっていないと思われ、今後の課題となるでしょう。普賢岳災害とのたたかいいの中で、又、島原の地域に根ざしたまちづくりを推進する中で「島原市まち並景観賞」が広範な市民の理解と協力によって、ますます成果を上げられますことを心より願っております。

選考委員長 石 野 治



61 景観賞 (有)辰巳屋総本店

所在地 島原市中組町275
所有者 水谷幸一
設計者 (株)藤元工務店設計事務所
施工者 (株)藤元工務店
完成日 平成6年2月10日

中組町に建つ菓子の老舗の建築である。1階は道路より向って左から住宅の玄関、店舗、工場に、又2階は住宅になっている。2階の道路側外壁及び妻側外壁は白壁造りになっていて、和瓦を載せた庇や、白塗の格子は島原の伝統的な町屋の風情をそなえている。1階は白い壁面に太い木製の柱と梁を配することで、建物の外観を引締めるのに成功している。

2階を1階より後退させ、所謂下屋風に構成している手法は、町屋風のまち並景観を形成する上で推奨すべき手法であり、開口の大きいこの建物の場合、特に効果をあげている。

62 景観賞 大石一保邸

所在地 島原市弁天町1丁目7413
所有者 大石一保
設計者 南園田建築事務所
施工者 吉田工務店
完成日 平成6年11月30日

理性院に隣接した閑静な敷地環境に建つ。道路から見た和瓦の切妻屋根が、2階部分、平屋部分、更に車庫部分とリズムカルに構成され、玄関ポーチと広縁の下屋が変化を与えている。

瓦葺の門と、同じく瓦をのせた堀とが、数寄屋建築の風情を強めている。良質な材料と優れた施工とに裏付けられた和風住宅の良さは、見る人にすがすがしさと一種の安心感を与えてくれる。門の格子戸から見える玄関先の小庭は、道行く人の目を楽しませてくれる。又、敷地周辺は高低差のある地形で、見る人の位置により様々な姿を見せてくれるのも楽しい。



63 景観賞 (有)中村防災

所在地 島原市浦の川町2150-1
所有者 中村肇子
設計者 佐藤和男建築研究所
施工者 川田建設工業(株)
完成日 平成6年10月1日

拡幅事業が進行中の県道の角地に建つ会社の社屋である。この拡幅事業中の県道添いには、これまでまち並景観への協力を意図した建物が増えており、受賞作品も多い。

この建物は2階に事務所、1階に駐車場と倉庫を持つ鉄筋コンクリート造である。県道に平行に長辺を持つ平面であるが、先端部分の半円形の外壁、ピロティの壁柱と天上の格子スラブ、コンクリート打放しと吹付壁との対比構成等、優れた造形である。又、玄関階段脇の小さな庭の植栽や、将来コンクリート面を蔽うであろうアイビス等、やさしい心使いもうかがわれる。



64 保全賞 中屋商店

所在地 島原市城内一丁目1186
所有者 中島良平
設計者 (有)吉田建築工業設計事務所
施工者 (有)吉田建築工業
完成日 平成6年11月1日

第1回まち並景観賞を受賞した中屋商店の新しい倉庫の増築と、既存部分の改修である。新しい倉庫は主屋と同じく堀側に切妻を見せた2階建てで、主屋と雁行させることでまち並に余裕とリズムを作っている。改修は従来の優れた風情をこわすことなく、外壁サッシュ等を改修したものである。今回久々の保全賞に選ばれた。





65
奨励賞 今坂正継邸

所在地 島原市白土町1150-4
所有者 今坂正継
設計者 (有)園田建築事務所
施工者 (株)米田建設
完成日 平成6年9月30日

白土湖に對面し、酒造場に隣接して建つ住宅である。奥深い敷地には古い建物が残されていて、風情のある景観を形成している。板貼りの外壁腰と道路に面した塀、べんがら漆喰壁を思わせる外壁の色、計算された切妻のデザイン等は、敷地内のコンクリートのタンクや、酒造場のスレート壁に負けることなく、むしろ共生出来る強いデザイン性を持っている。



66
奨励賞 株式会社古瀬組社宅

所在地 島原市大下町2410-36
所有者 株式会社古瀬組
設計者 田中建築設計事務所
施工者 株式会社古瀬組
完成日 平成6年4月1日

大下町のゆるやかな高低差のある地形に建つ住宅で、周辺道路との高低差の最も大きい敷地南東部に門及び車庫を配し、玄関へは階段でアプローチする。この位置から見上げる数寄屋風建物は、和瓦葺切妻屋根の適度なボリュームに分節されている。縁取りと縦目地のあるコンクリート打放しの擁壁と、数寄屋風木造住宅とは素材を生かす点で共通し違和感を感じさせない。



67
協力賞 中村 肇子 邸

所在地 島原市新建2106-2
所有者 中村肇子
設計者 佐藤和男建築研究所
施工者 川田建設工業(株)
完成日 平成6年10月1日

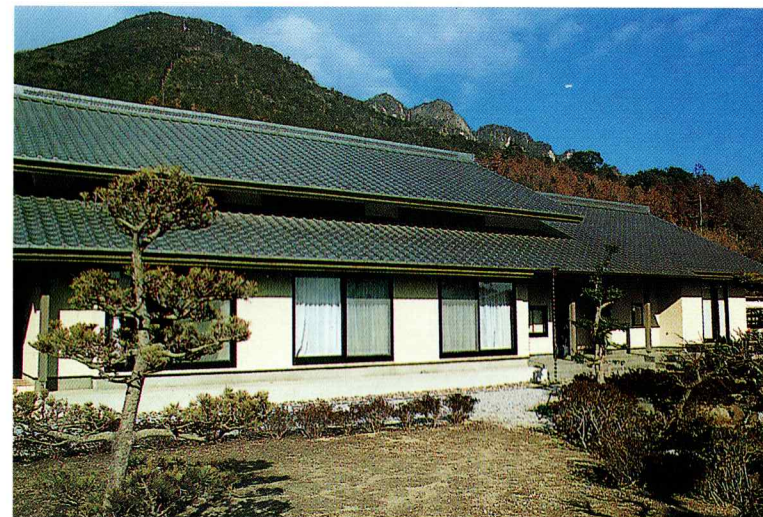
武家屋敷に近い敷地に建つ三世代住宅である。道路側と敷地奥とで住み分け、廊下で連絡されている。敷地は道路より高く、夫々の玄関へはスロープ状の道路でアプローチする。道路側の擁壁は間知石で積まれ、中に囲い込まれる様に車庫が作られている。

68
協力賞 前田千徳邸

所在地 島原市仁田町乙853
所有者 前田千徳
設計者 インターメディア一級建築士事務所
施工者 園田工務店
完成日 平成6年3月6日

普賢岳を間近に望む敷地に建つ三世代住宅である。建主の経営する木工場の事務所、工場のほか、馬の牧舎もある広大な敷地にふさわしく平屋建の重厚な住宅で、中央に越屋根をもつ和瓦の雄大な屋根、開口部の大きいサッシを配した外壁など、堂々とした風格を感じさせる。

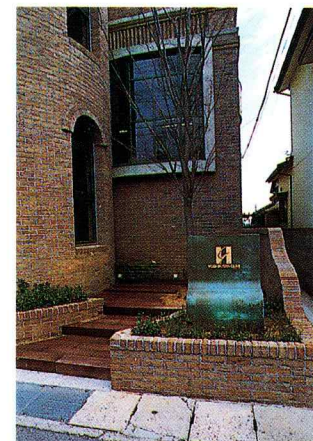
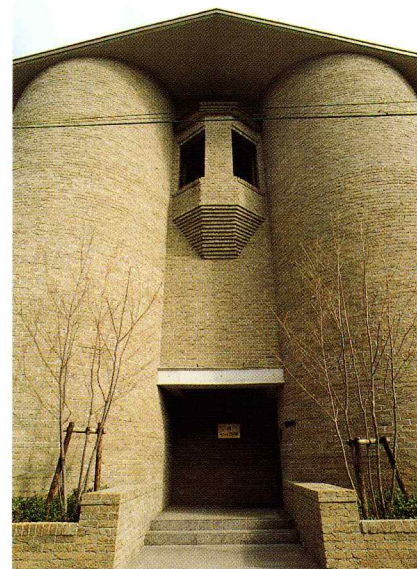
又、普賢岳の降灰を考え、玄関以外の樋を廃した軒先のディテールは、屋根を一層美しく見せている。



69
協力賞 株式会社 吉川組

所在地 島原市中町803-1
所有者 吉川 学
設計者 本田設計建築事務所
施工者 株式会社 吉川組
完成日 平成6年6月30日

島原城のお堀の東側、国道251号との間の角地に建つ建設会社の社屋である。二つの円柱を思わせる丸味を持った煉瓦の外壁が、薄い切妻屋根を支えた外観構成はユニークである。白井屋一やライトを連想させる外観構成であるが、外壁の本物煉瓦、その目地の扱いは魅力的で、正面脇の枕木を敷いたポケットパークには、まち並へのやさしい配慮を感じる。



70
協力賞 松尾昭和宅倉庫

所在地 島原市中組町252-1
所有者 松尾昭和
設計者 二級建築士事務所 増崎工務店
施工者 増崎工務店
完成日 平成6年12月15日

第1回島原市まち並景観賞で保全賞を受賞しその後の写真コンテストでも絶好のモチーフとして市民の心に強い印象をとどめている松尾昭和宅の道路向いに建っている。白壁土蔵風の倉庫で、上記松尾昭和宅周辺の町屋景観を面的に拡大する役割を果たしている。同じ敷地内に残されている本格的土蔵の改修保全が望まれる。





1996

島原市まち並景観賞の選考を終えて

普賢岳の火山活動も、昨年5月には火山噴火予知連絡会の「噴火活動は、ほぼ停止状態」という見解発表があり、それ以降の状況をみても収束のきざしありと判断できると思います。この様な状況をうけて、防災工事の一層の進捗とあわせて復興計画に本腰を入れた取り組みが期待されます。既に完成した船泊・仁田の被災者向け住宅団地も、船泊団地では完成戸数86%、着工中を含めれば96%を達成し、仁田団地でも各々30%と53%に達しております。

最近の新聞では、宇土地区への住宅団地造成の方針決定が報道されましたし、「ひょうたん池公園整備計画」の朗報も伝わっています。また、島原の景観と深い関わりのある「島原市中心市街地街づくり・中央公園設計競技」が進行中で、応募登録件数は、約670件に及び、191件の力作が全国から寄せられました。島原の災害復興と景観づくりに寄せる全国からの注目が如何に大きいか驚かされます。

さて、今回のまち並景観賞応募件数は55件で、内訳は専用住宅39件、店舗併用住宅6件、施設9件、その他1件となっています。受賞は、景観賞2、奨励賞3、協力賞4で、

内訳は専用住宅4件、店舗併用住宅2件、施設3件となりました。

応募件数の中には、船泊団地より1件、仁田団地より3件が算えられていますが、私がこれらの団地を拝見しての感想を申し上げて、今後の参考にして頂ければと考えます。概説しますと、これらの団地を形成する一戸一戸は、住まい手のライフスタイルの多様化を反映した現代的住宅としての装いを見せていて、おそらく日本中の大部分の団地に見られる景観とほぼ同一の質的傾向に流されつつあると思われます。それは、住宅相互間の連帯感、団地の地域としての一体感に乏しい、つまり住宅一戸一戸が自己完結型で、向こう3軒両隣への配慮、地域景観への配慮に欠けているという事です。

宇土地区に計画される団地の場合、集団移転される住民の連帯感が損なわれることのない環境的・空間的支援を是非基本的コンセプトとして掲げて頂きたいと考えます。

選考委員長 石野 治



71 景観賞 (有)杉田ボーリング事業所

所在地 島原市秩父が浦町丁3587-7
所有者 杉田豹獅狼
設計者 (有)園田建築事務所
施工者 宅島建設(株)
完成日 平成7年11月1日

国道251号線を走ると、秩父が浦の海側に見える併用住宅である。1階の事務所を鉄筋コンクリート、2階の住宅を木造とした混構造であるが、それぞれの用途に適合した構造の選択が事業所部分の安定性と住宅部分の親しさ暖かさを表現している。

国道と旧道に挟まれた細長い敷地に合わせて、建物は長い棟をもつ和瓦の切妻屋根とし、妻側に設けられた和瓦の庇や一部板張りのバルコニーが程良いアクセントになっている。

72

景観賞 北田秀喜邸

所在地 島原市大下町丙1214
所有者 北田秀喜
設計者 橋本設計事務所
施工者 園田工務店
完成日 平成7年4月1日

大下町の国道57号線の東側に建つ住宅。家族構成は、夫妻と両親、祖母の5人家族。数奇屋風にデザインされた建物は農地につながる広々とした敷地にゆったりと建っている。切妻屋根の大きな壁面と、張間いっぱい作られた銅板葺きの土庇がおおらかに来訪者を迎える。

建物の中央部分の腰屋根は、建物に適当な変化を与えている。石と灌木と数少ない形の良い庭木で造園された建物南側の庭園は、囲い込んだ感じがなく、地域と良く調和している。



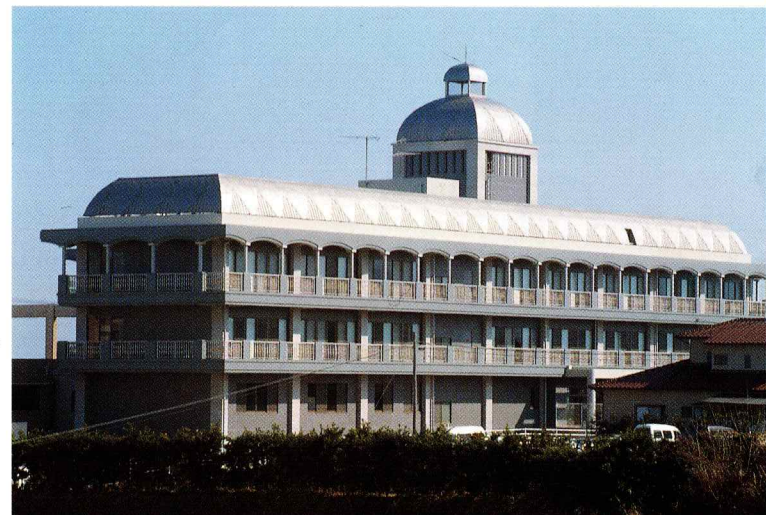
73

奨励賞 老人保健施設 フォスター島原

所在地 島原市中野町丙271
所有者 医療法人重真会理事長 木下眞吾
設計者 (株)企画工房
施工者 (株)熊谷組
完成日 平成7年9月30日

島原市行政区域の最北に位置する。広域農道を島原にアクセスする車から見る景観は印象的である。海に向かって緩やかに傾斜する山裾に、中央にドームを持つ金属屋根が輝いて見える。近づいてみると、列柱に支えられた丸みを持った屋根の金属板の貼り方にも工夫が見られる。

島原北部地域のランドマークにふさわしい建物である。



74

奨励賞 島原外港1号・2号 可動橋機械室

所在地 島原市下川尻町6
所有者 長崎県
設計者 インターメディア1級建築士事務所
施工者 加藤建設(株)
完成日 平成7年7月20日

島原外港と熊本新港及び三角港を結ぶフェリーの1号、2号可動橋機械室が新しく登場した。

1号可動橋機械室は、既存の箱形の建家の改装で、新しく架けられた屋根は飛翔するかもめの翼を想わせる。2号の機械室は、スチールやガラスブロック等の現代的材料を上手に生かし、新らしくデザインされたもの。何れも港にあたらしくモダンな表情を与えている。





75 奨励賞 池田 繁義 邸

所在地 島原市大下町丁2410-19
所有者 池田繁義
設計者 本田設計建築事務所
施工者 (有)増崎組
完成日 平成7年2月1日

大下町に建つ住宅で、昨年度奨励賞受賞の会社社宅に隣接している。前面道路は緩やかな坂道でコンクリート打放しの敷地擁壁には隣家と同じ目地が切られ街なみの連続感を大切にしている。和風小瓦を乗せた真壁風の塀、道路側からみられる3つの切妻屋根、和瓦葺きの木造の門構え、じゅらく風の外壁仕上等、落ち着いた風情を作り出している。



76 協力賞 蘆田 矩敬 邸

所在地 島原市城内2丁目1035
所有者 蘆田矩敬
設計者 田中設計事務所
施工者 (有)植田建設
完成日 平成7年9月1日

城内に建つ住宅。住まい手が牧師さんで、当初洋風の建物が希望であったが、城内地区の景観への配慮に理解を示され現建物の設計になった。石垣の上に刈り込まれた「いたぶ」の生け垣が実を結んで、見事に城内地区の景観保全に役買っている。塀の内側の水路を生かした玄関へのアプローチは、しっとりとした風情をたたえている。



77 協力賞 峰 安夫 邸

所在地 島原市高島町2丁目7240-10
所有者 峰 安夫
設計者 ホンダ建築設計事務所
施工者 (有)島田内装表具・上田建設(株)
完成日 平成7年3月20日

音無川の河口に近く、道路の角地に建つ。住宅が建てられる以前、この敷地は庭石を配した庭園であった。現在の敷地周囲の垣は、これらの庭石を利用し、道路からの景観を念頭に庭木を配している。垣の上に道路に向かって咲いた数輪の椿の赤が印象的であった。

軒先を銅板葺きにした和瓦一文字葺の建物は、特別改まった感じではないが、数奇屋風にまとめられている。

78 協力賞 入江 整骨 院

所在地 島原市親和町2
所有者 入江忠臣
設計者 (有)入江工務店1級建築士事務所
施工者 (有)入江工務店
完成日 平成7年5月30日

親和町の広い道路に面して建つ。1階北側3分の1が整骨院、その他は住宅の併用住宅である。住宅は院長家族4人と、前院長御夫妻との3世代住宅。前院長御夫妻は1階南側部分を使用し、前庭のある門からアプローチする。

併用住宅、3世代住宅という条件を素直に外観に表した好感のもてる建物である。



79 協力賞 鯉の泳ぐまちポケットパーク

所在地 島原市新町2丁目
所有者 島原市
設計者 島原市
施工者 (株)米田建設
完成日 平成6年3月31日

「鯉の泳ぐまち」は島原の貴重な観光資源であり、島原市民の心をつなぐ誇りであり文化である。優れた街なみが長い時間をかけて徐々に形成されてゆく様に「鯉の泳ぐまち」も市民の協力と支援によって時間の中で、次第に豊かなネットワークを形成してゆく。

今回受賞のポケットパークはこのネットワークの重要なポイントであるが、土地を提供された市民と行政との協力の成果である。





1997

島原市まち並景観賞の選考を終えて

島原市まち並景観賞が制定され、1988年に第1回の表彰が行われて以来、今年は10年目を迎えます。1992年表彰は雲仙普賢岳噴火災害の為に中止されたので、今年は9回目の表彰になります。

毎回一定の質的水準を維持しながら、前年までに既に約80件の表彰作品を選考して参ったことになります。それは、市民の広範な層でのまち並景観への関心の高まりを背景として、多くの優れた候補作品の推薦があったからだと思えます。

今年度から、事務当局の発案により、郵便はがきを利用した推薦書を市内全戸に配布され、広く候補作品の推薦を求めることになりました。

その結果、49点の候補作品の推薦を、女性10名を含む延べ59名の方から頂くことが出来ました。その内訳は、専用住宅30点、店舗併用住宅3点、店舗・事務所9点、その他ポケットパーク等の工作物7点であります。推薦者の年齢層は、40代、30代の順で多く、29歳から71歳までの幅広い市民からの推薦を頂きました。この内複数の市民からの推

薦のあった作品は6点で、内2名の推薦が3点、3名が2点、4名が1点でした。選考委員会では、推薦数にとらわれず、例年の手順により選考を行った結果、期せずして、3名以上の推薦者のあった作品3点がすべて景観賞に選ばれました。この事は、選考委員のまち並景観賞選考に当たっての考え方や見方が、市民のそれと大きな所で一致しているという事で、選考委員会としてまことに嬉しい結果でありました。

来年は10回目の記念すべき島原市まち並景観賞の年です。11年間の長い間にこの事業が続けて来られたこと、そして、100点の表彰作品が島原市内に実現するということは素晴らしいことです。それは一重に市民の皆様の深い御理解と御支援の賜と思えます。10回目の記念すべき年を飾るにふさわしい作品の推薦が頂けることを心から期待しております。

選考委員長 石 野 治



80 景観賞 街かどギャラリー

所在地 島原市高島一丁目445-3
用地協力 若松ヨシエ
企画者 生活・空間デザイン研究会
施工者 生活・空間デザイン研究会
完成日 平成8年5月5日

高島一丁目、夜の街に近く、街路の一角に実現したオープンスペースのギャラリー。展示のない時はポケットパークとして街に潤いを与えている。四季折々の演出が楽しい。かぼちゃイルミネーションが美しい等市民の推薦があり、「街かど」が美しく変化したことに対して、多くの市民の共感が得られた。設置や維持の経費を度外視して街に美を演出しようとするグループのまち並精神には頭の下がる思いがする。この精神を育て拡げてゆく市民一人一人の高い民度が期待される。

81

景観賞 島原ショッピングモール ウィルビー・ポケットパーク

所在地 島原市湊町66番地
所有者 有限会社アイビー企画代表取締役 山本篤五郎
設計者 (有)宮本造園・(株)シビルライフ・
吉田一級建築士事務所
施工者 星野建設(株)
完成日 平成8年3月15日

島原ショッピングモール「ウィルビー」の敷地の一角、温泉病院前バス停に面して設置されたポケットパーク。敷地の高低差を生かし、自然石の擁壁と植栽とに抱かれた小さな広場である。中心に植えられた高木の周りに設けられた腰かけやベンチは、材料も石あり木あり、形も自然石型や櫛型等バリエーションに富んで楽しい。殊に石を加工した背もたれのある椅子は道行く人、バス待つ人の遊び心をくすぐって魅力的である。センサーによる小鳥のさえずりも演出され、ライティングされた夜の景観は、街を明るく美しく輝いて見せる。



82

景観賞 大竹弥寿彦邸

所在地 島原市城内一丁目1111-2
所有者 大竹弥寿彦
企画者 インテリアデザイン事務所BOX
(有)宮本造園
設計者 橋本一級設計事務所
施工者 (株)新栄建設
完成日 平成8年11月30日

城内一丁目に建つ住宅で、数寄屋風とは違った、一見無骨な、風格を感じさせる住まいである。東西に長い平面の建家が、比較的道路に接近して建てられている。本屋根の軒先と、腕木で支えられた瓦葺の庇の軒先線とが、二段の長い水平線を形成しているのがこの住宅の外観の特長である。武家風の門も又、この住宅の景観を性格づけている。門扉はなく、道路から敷地への階段が、門の内外を心理的に区画していて、道行く人は、門扉に遮られることなく、直接玄関廻りのしつらえを伺うことが出来る。



83

奨励賞 すし勝二軒茶屋店 けやき

所在地 島原市前浜町甲15-2
所有者 店主 下田和夫
企画者 インテリアデザイン事務所BOX
設計者 星野建設(株)
施工者 星野建設(株)
完成日 平成8年10月10日

市の北部、北門町の国道に面して建てられた食事施設。国道側正面はコーナー部分が欠けた変形の切妻屋根で、妻壁の紅がら色と、ステイン塗りの木格子の 패턴が、国道を通る人や車からの視線を抱える。建物は特に奇をてらう風でなく、堅実なデザインが好感を抱かせる。敷地前のバス停廻りの景観整備にも力を貸して頂ければ素晴らしいと思う。





84 **奨励賞 さくら福祉会 桜花保育園**

所在地 島原市亀の甲町乙100
所有者 社会福祉法人さくら福祉会理事長 蒲池稔彦
設計者 本田設計建築事務所
施工者 ㈱三青
完成日 平成8年2月29日

亀の甲町の田園風景の中に、一際特長のある屋根の一群が、道行く人の眼をとらえる。まるで雪をかぶった様に棟部分を白い金属板で覆った急勾配の腰折れ屋根は、島原地方の伝統的形態とは無縁であるが、木構造の内部空間を正直に外部に表わしたものである。木製建具で囲まれたガラス屋根の廊下と共に、園児達の心の原風景として何時までも記憶に残るであろう。



85 **奨励賞 宮崎金助邸**

所在地 島原市古町2272
所有者 宮崎金助
設計者 馬場住宅株式会社
施工者 馬場住宅株式会社
完成日 平成8年8月31日

古丁に建つ瓦葺和風住宅である。入母屋造りの屋根、段のついた破風、じゅうく色の外壁が、この建物を重厚なものにしている。道路の塀は、伝統的な石積塀で、いたびかつらが美しく、地区の伝統的景観を良く保全している。銅板一文字葺の屋根をもった木造の門の格子戸から伺える玄関廻りの庭園も美しい。



86 **協力賞 鹿田訓也邸 愛称かじか**

所在地 島原市新町二丁目121-1
所有者 鹿田訓也
設計者 ㈱濱崎建築設計事務所
施工者 ㈱米田建設
完成日 平成8年1月31日

1996年度島原市まち並景観賞協力賞の「鯉の泳ぐまちポケットパーク」は、鹿田邸の敷地の一角を市が借地整備したものである。鹿田邸の外周に廻らされた白壁の塀は、ポケットパークと一体化し、通用のための門と共にポケットパークの装置の一部を構成している。正面の門は道路との間に十分な空間を残し、植栽も配せられて、まち並への配慮が感じられる。

87 **協力賞 若松ヨシエ邸**

所在地 島原市高島一丁目445-3
所有者 若松ヨシエ
設計者 ㈱米田建設・㈱宮本造園
施工者 ㈱米田建設・㈱宮本造園
完成日 平成7年12月1日

高島一丁目、街かどギャラリーに連続した宅地に建つ住宅。道路境界から後退して建てられた塀は、道路との間に帯状の庭園スペースを提供し、隣接の街かどギャラリーと呼応して、ポケットパーク的空間を道路添いにワイドなものにしている。瓦をのせた白い塀、格子戸の木造門構え、植栽など、明るく清潔なまち並景観を形成している。



88 **協力賞 永田龍虎邸**

所在地 島原市仁田町乙1845-74
所有者 永田龍虎
設計者 ㈱園田建築事務所
施工者 ㈱昭和技建工業
完成日 平成8年5月30日

仁田団地に建つ三世帯居住の住宅である。二階建部分の他、玄関や二つの突き出た平屋部分、別棟の農業用倉庫など、幾棟かで構成された外観が特長である。和瓦の切妻屋根、切妻面の化粧柱や梁、外壁腰の杉板張りなど、手馴れたデザインである。門から玄関廻りの造園もさることながら、外周塀の頂部に廻された笠木の繊細な意匠が美しい。



89 **協力賞 特別養護老人ホーム 淡淡荘**

所在地 島原市江里町乙2010-1
所有者 社会福祉法人楽山会理事長 喜多吉彦
設計者 ㈱日匠建築設計
施工者 ㈱本村工務店
完成日 平成7年4月30日

市の西北、江里町に建つ老人福祉施設。起伏に富む緑豊かな地域環境の中で、寄せ棟屋根の形態や勾配が、背景の緑の山の形態や勾配と同化し、比較的大きな施設でありながら、周辺の自然景観と対峙することなく共生している。外壁や屋根の色も、周辺環境からの遊離を避ける配慮が伺われる。将来、時間をかけて、道路側擁壁の緑化を目指してほしい。





1998

「島原市まち並景観賞の選考を終えて」

「島原市まち並景観賞」は1988年に第1回の表彰が行われてから、今回が10回目の表彰になり、受賞作品が100点に達しました。その間、島原は雲仙普賢岳噴火という大試練に遭遇しました。それは正に20世紀最大の試練でありました。私は正直言って、これで「島原市まち並景観賞」はおしまいかと半ば観念した程でした。しかし市当局の英断によって1年の中断を経て再会されました。再会された第5回の景観賞選考の後記の中で、私は次のような意味のことを書いています。「平成3年6月3日の大火砕流以降、建築確認申請件数は、以前の年間400余件から200数十件に減少しています。こうした状況にも拘わらず、今回31件とこれまでの4回と変わらない応募・推薦があったことは、市民の復興への熱意の中で、まち並景観への理解と熱意とが依然として衰えていないことを示すものと思います」と。その後第6回の53件から、60、55、49、と毎回噴火災害による中止以前を大中に上廻った応募件数を数え、今回の56件と合わせて、447件に達したのであります。10回の選考

を通じて表彰内容は、景観賞26、奨励賞33、協力賞35、保全賞6、合計100点であります。又、これらの表彰作品以外の惜しくも選考に漏れた作品の殆どすべてが、夫々与えられた条件の中で、島原のまち並を念頭におき、その景観づくりへの参加を意識されていることを強く感じたのであります。「わが家でも水と緑のまちづくり」これが「島原市まち並景観賞」のスローガンであり、応募・推薦数447を実現した精神的指針であったと思うのであります。

幸いにして、来年以降も景観賞の表彰は継続されると聞いております。次の表彰作品100を目指して、これまでの経験を十分に総括し、情性に流されることなく、より広く市民の意見を汲み上げ、市民の協力を得て、市民のためのまち並景観づくりが、充実した内容をもって着実に成果をあげられることを心より願っております。

選考委員長 石 野 治



90 景観賞 絃燈舎 (和楽器みうら)

所在地 島原市上の町864
所有者 三浦典子
設計者 インテリアデザイン事務所BOX、森本園芸造園部
施工者 森本園芸造園部
完成日 平成9年7月

大手広場から北に入る通りに、大正末期の木造二階建を改装した展示スペースを持つ和楽器店がお目見えした。道路から後退して建っている建物は、二階屋根だけでなく、一階下屋部分も入母屋になっていて、昔歯科医の診療所であった名残りとどめている。展示場や楽器店への人の出入りが、その昔診療所に通う人々の姿とオーバーラップして、建物の保全を通して、人々の生活の昔の姿を今に止めている様にさえ思える。

91 景観賞 大場昭生邸石垣塀

所在地 島原市秩父が浦町丁3530-3
所有者 大場昭生
設計者 増永 宝
施工者 増永 宝
完成日 平成7年3月

平成3年6月30日の大土石流が大場さんの屋敷を襲い、家屋や木立ちを屋敷周囲の石塀もろとも一瞬のうちにのみ込んだ。現在地には、被災した家屋と殆ど同じ間取りの住宅が建てられ、石塀に使われていた石材を運び加工して積み上げられた。家屋財産だけでなく、一家の生活やその歴史さえ押し流された無念への家族全員の想いである、石塀は昔からの伝統的技法を受け継ぐ石工一家の手で築造された。約半年を要したという見事なものである。



92 奨励賞 安藤正純邸

所在地 島原市城内二丁目1008
所有者 安藤正純
設計者 南伊東克廣設計事務所
施工者 小林建設
完成日 平成9年5月12日

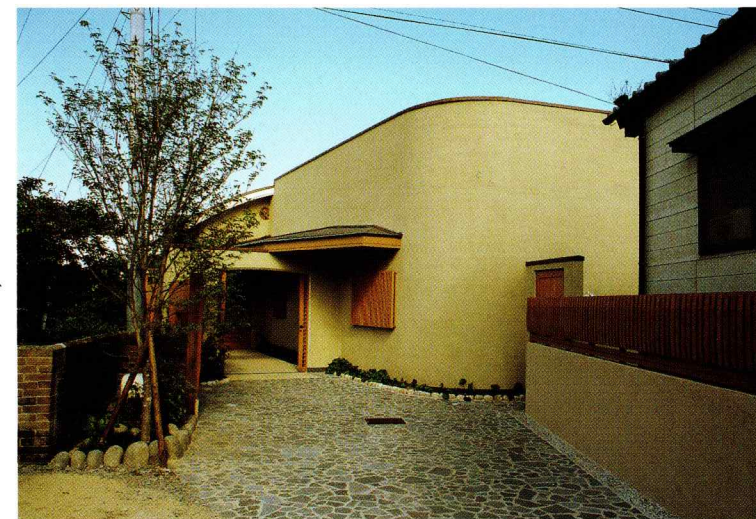
城内二丁目に建つ平屋建和風住宅である。道路と門との間の広いスペースは、四台分の駐車希望された建て主からの条件である。駐車スペース正面の門の銅板葺屋根と、奥に見える平屋建の寄棟屋根とが穏かで心地よい連続感を抱かせる。門の格子戸や潜り戸の木の素地が、塀や建物外壁の白と調和して美しい。



93 奨励賞 吉川学邸

所在地 島原市片町678-5
所有者 吉川 学
設計者 本田設計建築事務所
施工者 株吉川組
完成日 平成9年3月20日

敷地は片町交差点に近く、国道から長い私道でアプローチする。私道は鉄平石で美しく舗装されている。正面突き当たりの、ふくらみを持った淡いクリーム色の塗り壁が、明るくステインされた上質の杉を使った木格子の引戸や堅い格子、突き出した庇等と美しい調和を見せている。この魅力的なアプローチの私道は、敷地奥の児童公園への通り抜け道としても使われている。





94

奨励賞 岩永弘昭邸

所在地 島原市中野町丙34-2
所有者 岩永弘昭
設計者 株式会社ヤマ
施工者 株式会社ヤマ、森本園芸造園部
完成日 平成9年4月24日

中野町に建つ住宅。L字型に曲った道路の外側に接した敷地で、玄関に向かうアプローチは、道路の曲り角に近い側に配されている。門は無く、小瓦をのせた塀は、大人の視点より低く、アプローチ廻りの植栽や石組、灯籠などを見ることが出来る。道路に面して建っていた元の住宅跡地は、広い駐車場になっている。新しい住宅との境は塀代わりに竹が植栽されていて、明るい緑がさわやかである。



95

奨励賞 古瀬育洋邸

所在地 島原市秩父が浦町丁3500-3
所有者 古瀬育洋
設計者 南園田建築事務所、南宮本造園
施工者 南昭和技建工業、南宮本造園
完成日 平成9年6月1日

秩父が浦バス停の近く、国道を西に入った敷地に建つ住宅。黒っぽくステインされた木部と白い壁とが落ちついた風情を示している。塀は分節され、一直線ではなく、透き間が出来るように角度をもって建てられ、足元には植栽が施されている。スケールの長大化を避けるとともに、塀による内外の分断感をなくそうとの意図が感じられる。塀のコーナーに祭られた猿田彦は、地域への連帯感を示している。



96

奨励賞 小鉢藤彦邸

所在地 島原市門内町丙613
所有者 小鉢藤彦
設計者 南園田建築事務所
施工者 園田工務店
完成日 平成8年11月15日

敷地は国道57号線門内文差点の角地で、西の道路側は、切妻屋根の平屋建て住宅が、豊かな緑の植栽から見え隠れている。国道側は、住宅部分と作業所の間に前庭があり、玄関へは此処からアプローチする。この前庭は施主自ら造園に挑戦されていて、植栽、石組、木の欄干のある橋等、武骨さの中に自由と素朴さを感じさせる好ましい庭である。

97

協力賞 医療法人城内会八尾病院及び八尾勝邸

所在地 島原市内一丁目1193
所有者 八尾勝
設計者 小野設計(株)、南宮本造園
施工者 八尾病院新築工事施工共同体(戸田建設(株)・株細波組JV)、南宮本造園
完成日 平成9年4月30日

島原城のお堀の東南角に接して建て直された病院棟と、工事に際して、取り壊すことなく保全された院長宅である。病棟は堀に近い部分を2階におさえ、威圧感を極力避けている。建物のディテールも良くデザインされている。道路から駐車場越しに見える院長宅は、入り母屋と切妻屋根を組み合わせた堂々とした正面をもっていて、前面の門、塀とともに道路からの視線をしっかりと受けとめている。



98

協力賞 会席料理 はしもとや

所在地 島原市内三丁目991
所有者 牟田口安信
設計者 南宮本建築工業設計事務所
施工者 南宮本建築工業
完成日 平成9年1月25日

城内三丁目に建つ会席料理店で、歩道のある比較的大い道路に面して建てられている。建物は平屋建て、黒いセメント平瓦の寄棟屋根が、和瓦とは又違った風情を見せている。木の素地を生かした、巾5mの大きな観音開き戸、頂部に瓦をのせた明るい色彩の低い塀が、前面の広い道路と相俟って、明るくゆったりとしたまち並空間を創っている。



99

協力賞 坂口龍彦邸

所在地 島原市下の丁1945
所有者 坂口龍彦
設計者 南園田建築事務所
施工者 田浦経晴
完成日 平成9年5月1日

下の丁、武家屋敷のある水路の通りに面した住宅。道路に面した敷地の一部を玄関へのアプローチを兼ねた駐車場とし、残りの道路境界に市の助成による石塀を新しく構築したものである。建物屋根は道路から敷地奥に向かって切妻部分を雁行させ、リズムのある変化を持たせている。市当局の石積み塀による景観保全の方針と、それを受け止めた民間の景観への理解が生んだ好ましい成果である。





100

協力賞 深瀬和幸邸

所在地 島原市船泊町丁3306-59
所有者 深瀬和幸
設計者 (有)昭和技建工業、(有)大手口緑花園
施工者 (有)昭和技建工業、(有)大手口緑花園
完成日 平成6年11月8日

雲仙噴火の被災者を対象に計画造成された船泊団地に建つ住宅である。建物は道路から後退して配置され、玄関までの空間は前庭として整備されている。この前庭は門や塀で囲い込まれることなく、歩道に面して完全にオープンになっている。整備された庭を個人の鑑賞対象にとどめず、道行く人にも開放しようとする姿勢は、まち並景観を考える上で貴重である。

島原市まち並景観賞表彰実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、市全域において優れたまち並景観の形成に寄与していると認められる建築物、工作物、広告物、その他の物件(以下『建築物等』という。)を表彰することにより、まち並景観の向上とまち並景観に関する市民意識の高揚を図ることを目的とする。

(まち並景観上具備すべき要件)

第2条 優れたまち並景観の形成に寄与していると認められる建築物等とは、次の各号いずれかの要件を満たすものとする。

- (1) まち並の景観づくりに貢献し、新しいまち並景観の創造に資するもの
- (2) 伝統的なまち並景観及び自然景観の保全に寄与するとともにそれらと調和しているもの
- (3) その他優れたまち並景観の形成に寄与しているもの

(選定方法)

第3条 まち並景観賞は、市民等の推薦又は所有者、設計者及び施工者から応募があったものを対象とし、島原市まち並景観賞選考委員会(以下『委員会』という)の審査、選考により選定するものとする。

2、前項の推薦又は応募については、市民はあ

らかじめ建築物等の種類、用途、完成年次等の条件を付することができるものとする。

(表彰)

第4条 表彰は、建築物を対象とするが、当該建築物等の所有者(団体を含む)及び企画、設計、施工に携わったものも表彰することが出来る。

(選考委員会)

第5条 選考委員は、委員10名以内で構成し、市長が委嘱または任命する。

- 2、委員長は委員が互選する。
- 3、委員会は委員長が召集する。
- 4、委員長は会務を総括する。委員長に事故ある時は、委員長があらかじめ指定した者が、その職務を代理する。
- 5、委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(事務局)

第6条 事務局は、島原市建設課に置く。

(補則)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は市長が別に定める。

附則

この要綱は、昭和62年12月18日から施行する。

島原市まち並景観賞募集・表彰実施要領

(趣旨)

第1条 この要領は、島原市まち並景観賞表彰実施要綱の運用について必要な事項を定める

(まち並景観賞の対象)

第2条 まち並景観賞の対象は、次の各号にかかげる条件を満たすものとする。

- (1) 島原市域内に存するもの
- (2) 原則として3年前の1月1日以降に新築、増改築、保全工事を行った建築物等、又はそれらの複合体
- (3) 市民等からの推薦による建築物等及び所有者(団体を含む)、企画、設計者、施工者から応募のあったもの

(募集期間)

第3条 毎年11月25日から12月20日までとする。

(※平成9年度は、7月1日～25日)

(選考)

第4条 審査にあたっての選考基準は委員会で定める。

- 2 委員会は、審査の結果優れているものとしてまち並景観賞を選び、特に優れたものがあつたときは、まち並景観大賞その他の特別賞を選ぶことができる。

(表彰)

第5条 市長は、委員会が選定した建築物等の所有者(団体を含む)及び企画、設計、施工等に携わったものに対して表彰状を贈る。ただし、被表彰者が島原市である場合は、これを行わない。

- 2 表彰は毎月3月に行う。

(適用)

第6条 この要領は、平成9年1月6日から適用する。

島原市の住まいからのまちづくり

HOPE計画から街並み景観づくりへの展開

鮫島 和夫（長崎総合科学大学）

1. はじめに

島原市では1984年にHOPE計画策定したことを契機として、市民による住まいからのまちづくりを目指してさまざまな試みを行ってきています。87年度に始まった島原市まち並み景観賞もその一貫です。街並み景観形成において、顕彰という方式がどのような成果をもたらした、またその成功の要因はどこにあったのかを考えてみたいと思います。HOPE計画策定以来のさまざまな取り組みを概観しながら、それらと街並み景観づくりとの関連、あるいは島原市という小都市のもつ特性との関係のなかで11年間の「わが家からのいえ・まちづくり」の評価を行ってみることにしました。

2. HOPE計画からまちづくりへの経過とさまざまな取り組み

(1) HOPE計画の策定と目指したもの

島原市HOPE計画は84年度に市民各界、関連産業界、商工会やマスコミ、議会、学識経験者、建設省や県などの代表17名からなる「計画策定委員会」によって策定されました。計画は4つの目標をたて、それを6つの特色ある市内各地区ごとに具体化するという構成になっています。

目標の第一は、湧水と眉山・雲仙の緑という恵まれた豊かな自然をいえ・まちづくりに生かすこと、



第二は武家屋敷や商家筋など城下町の歴史的街並や亀甲積の石塀に囲まれた雰囲気のある農家集落など良好な伝統的街並を保全し生かしつつ、暮らしやすい家づくりをすること、第三は魅力的な石積や街並をつくり伝えてきた石工や大工など技術・技能集団の発展や地場の関連産業の活用・育成・第四は伝統ある街並と調和しながら、高齢化社会やウォーターフロントの活性化といった時代の要請に応える新しい住宅・住環境の形成を図ることとされました。

地域の特性を生かし、もっと多様で、もっと自発性・自律性のあるいえづくりを考えようという発想です。いえづくりは、単なる住宅づくりでなく、素晴らしい景観や住環境を、これまでの伝統ある地域空間に付け加え、まちづくりに繋げていくべきものだと考えられました。そして、何よりも市民一人ひとりと、そして地域の関連業界がこぞって、自らの地域に誇りをもって息長く運動として展開してこそ、その実りが豊かさを増してくるという視点が重視されました。

(2) 「わが家でも水と緑の街づくり」

…住民、事業者、専門家、行政の協同の仕事の展開

①家づくり街づくりのイベント

85年3月23日、HOPE計画の紹介と先に策定されていた「島原市水緑都市構想」をあわせて、市民と

ともにまちづくりを考えるという主旨で、講演とパネルディスカッションの「まちづくりシンポジウム」が開催されました。

つづいて、同年7月から8月にかけて「わが街・島原」スケッチ大会が、同年10月26日には講演会が催されました。小・中・高校生に、スケッチをとおしてふるさとの美しい自然と由緒ある街並を再発見して郷土に愛着を持ってもらおう、またその作品の展示と講演を通して、市民にいえ・まちづくりに関する意識を高めてもらいたいと意図されたものでした。

さらに、86年3月1～3日には、島原文化会館で建築士会島原支部と島原市との共同で「住宅フェア」が開催され、HOPE計画とそのモデル事業としての市営柏野住宅の基本計画がパネル展示されました。

このように、ひろく市民に住まいからのまちづくり運動としてのHOPE計画を理解してもらおうとの努力が払われました。

②建築無料相談所の開設

こうしたイベントの開催と並行して「建築無料相談所」を85年9月より設け、85年度中は月2回、86年度以降は月1回の頻度で公民館などを会場に開催しています。住いづくり情報の提供やHOPE計画の紹介を通して、家づくりのはじめから街への気配りを考えてもらおうと、地道に続けられています。相談員は、長崎県島原振興局建築課、建築士会島原支部、宅建協会島原支部、島原市建設課などの専門家が出ておられます。

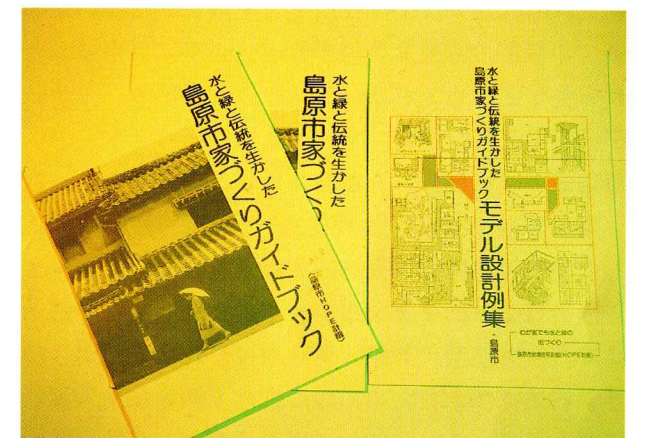
③景観や住宅・住環境の調査から環境カルテ、家づくりガイドブック、同モデル設計例集の作成と普及 島原の景観を魅力的にしている住宅や住環境の系



統的な調査を行い、その成果を市民の家づくりに生かしてもらう研究提言的な取り組みも行われました。

85年7～9月にかけて「石垣・道祖神等の調査」が、島原工業高校の協力も得て、建築士会島原支部青年部が行いました。島原の景観を特徴づける素朴で魅力的な石の文化についての調査で、保全再生への基礎資料を得ました。その成果を基に、湧水や水路、緑、建物状況などの資料を加え、地区別に整理した「島原市の環境カルテ」が87年3月に発行されました。

つづいて、86、87年度の2ケ年にわたって島原市の住宅・住環境の調査が、島原市から長崎総合科学大学鮫島研究室に委託されました。



島原市はかつての城下町とともに豊かな農漁村集落からも構成されています。武家屋敷、町家、農家、漁家など伝統的な建物あるいは石塀、樹木植栽、湧水や道祖神などによってつくられだされる美しい街並が現在も豊富に残されています。そうした典型的な街並15地区について、住宅と住環境や景観についての診断を行いました。診断結果はカルテとして図表や写真とともに示し、あわせてその処方箋を市民が家づくりにあたって心掛けるべきルールを、各地区ごとに「家づくり作法」として提案しています。

規則等としないで「作法」としたのは、住環境などはガチガチに取り決めたり、取り締まったりするという発想では豊かなものに展開することは望めない、むしろ魅力的で良好な住環境を生みだし育てようという市民の良識に目安を示すことでこそ、目安以上の果実が期待でき、街並づくりへと協同する市民の関心も更に高まると考えられたからです。

この成果は「家づくりガイドブック」「同・モデル設計例集」として出版されました。こうした街並調査研究の成果を学ぶ講演会が、建築士会島原支部青年部や島原商工会議所青年部等で開催されました。

④まち並写真コンテスト

ファインダーを通してわが街をみつめ、愛着と自慢の街角を再発見してもらおうと企画されました。

第1回まち並写真コンテストが87年度に、第2回が89年度に開催されました。多数の応募があり入賞作品の展示会も開かれ、改めて島原の魅力を市民みんなが再確認しました。

(その概要を補足、入賞作品の掲示)

⑤市営柏野住宅の計画から建設そして居住

柏野住宅の建替事業が、HOPE計画に基づく最初のモノづくりを伴う市施行のモデル事業として取り組まれました。基本計画は長崎総合科学大学石野研究室に委託され、86年3月まとめられました。このモデル事業の特徴を要約すれば、以下の5点にまとめられます。

①地域で共に計画し、創りあげる

島原市は1985年に地域住宅（HOPE）計画を策定し、柏野住宅を地域固有の環境を生かした住まいからの街づくりのモデル事業として企画しました。そこで、武家屋敷・商家・農家など伝統的な住宅と街並、石垣や湧水などの地域の個性を明確にする調査研究を行い、あわせて、計画の策定から実施・運営まで地元の目と愛情が注がれるようにと考え、地元の専門家、行政各分野の担当者を含めた18名からなる「柏野住宅基本計画策定研究会」を設け、検討を深めました。この研究会の成功が、HOPE計画推進懇談会という継続的な住まいからのまちづくりの推進機構を確立することに役立ったといえます。

②地域の豊かな自然と素材を生かす

島原の豊かな湧水は、暮らしのなかにいきづき、醸造などにも欠かせません。洗いは隣近所の交流の場、水路は街を美しく彩ります。この湧水利用の原理を活用した団地の住棟配置及び外構計画としています。外構を引き締める石垣は、色合いのよい安山岩、その風化土のセレクトが敷き詰められ、生垣のベニカナメや石垣のイタビカズラも地域では馴染みの素材です。

③地域の歴史、伝統、街並に調和する

柏野住宅は武家屋敷街並保全地区に続く一角にあります。石垣と木造の門・下屋（自転車・ゴミ置場）を巡らして街並景観の連続性を確保しました。住棟は三階建て、五寸勾配の大瓦屋根、漆喰壁、妻壁の飾窓庇といった伝統的な商家と蔵の意匠を生かして



います。また、外周の住棟は2～3階メゾネットで軒高を低く抑さえ、周辺の低層住宅街に馴染ませています。

④地域になじみ、領域感のある空間構成でコミュニティと自律的な管理運営を育てる

面識ある付き合いのできる30戸前後を住戸のグルーピング単位とし、湧水の「洗い場ひろば」から各戸にアクセスする囲み配置となっています。外周側には木造の下屋と門があって、視覚的にも心地よい領域感が生まれています。自然な出会いをつくる広場からのアクセスと領域感は、居住者のコミュニティを無理なく育て、自律的な空間管理を誘発しています。

4つの住戸群の会合う中央部には、団地全体の玄関ゲイトから続く石堀と湧水路のある中央広場と集会所があって、団地社会の中心となるとともに、周辺地域にも開放されていて、地域との交流点ともなることが期待されています。

⑤地域の生活と高齢化を考えた住戸を計画する

建替計画でもあるので、居住者の意見・意向を十分調査し、地域の住み方を考えた平面計画です。続間を、DK+6和あるいは6和+6和の形でとり、DK以外は和室としています。住戸内で展開される飲み会や盆・正月などの集まりに対応するためです。収納家具に住面を占拠されないように、タンス置場も設置しています。「洗い場ひろば」に面した北側住棟1階には、専用庭をもった高齢者向住戸を配して、自然な居住者との交流を、また濡縁、埋込浴槽、段差解消などの配慮をしています。

柏野住宅の計画とデザインは、雲仙・眉山の緑と豊かな湧水という恵まれた自然と、歴史と景観を生かした島原のいえ・まちづくりの創造的モデルとなりました。

1987～90年にわたって第1期から第4期の建設が行われ、完成とともに入居がすすみ、なかなか居住者の評判は良いようです。島原市の市営住宅団地で、独自の町内会と管理運営のための組織や取り決めを定めているのは、ここ柏野住宅だけです。他の団地では個々の居住者と市の住宅管理者との直接的なやり取りが一般的で、団地の居住者組織との関係が、その間に入ることはないとのこと。この建替再入居をきっかけに町内会の結成とその運営に関する決定が行われたのは、領域感とコミュニティを醸成する団地の計画と大きな関係があると考えられます。また、市営住宅の空き住宅募集でも、いつも人気一



番はこの柏野住宅です。立地の良さとともに、団地の住宅と住環境及びコミュニティの良さが評価されていると考えて良いでしょう。

⑥全市職員向け研修会・市広報での系統的PR

HOPE計画策定以来のさまざまな取り組みを「担当部局の仕事」との理解に終わらせないで、その成果と「すまいからのまちづくり」の精神を市の全職員のものとする、そしてまちづくりに市全部局が横断的に対応していく切っ掛けとして「まちづくり研修会」が89年8月28～29日に開催されました。あわせて、同年度市広報に11回にわたって、こうしたさまざまな取り組み等の記事の特集し、市民に向けて系統的にPRしました。

3. 島原市まち並景観賞の設定と運営 およびその効果

(1) 島原市まち並景観賞の設定と実績

「まち並景観賞・島原市」の表彰銘板が、お店の正面の棚で金色にひかり誇らしげです。お城に向かい合った中屋商店の建物は、腰屋根をもった大きな切妻屋根と妻面の白壁で堀端の景観に配置しつつ新しい景観を創り出したとして、第1回のまち並景観賞を受賞しました。同じく喫茶ケルンは民家を改造保全して活用しているとして保全賞を、古瀬邸石堀は道路拡幅にともない伝統の技術で積み直したとして協力賞を、清水邸植込は小さなスペースの大きな心遣いとして奨励賞を受賞しました。このように87年度に始まった島原市まち並景観賞は、島原の歴史・自然・まち並に似合う住宅や建物等、あるいは一寸した住環境を創り出したり保全したりしている施主や団体、設計者、施工者を顕賞し、市民の自発的な「わが家からの街づくり」を激励しようという興味深い試みでした。

その特徴としては、①建物だけでなく堀や庭、工

作物なども、②新築・建替だけでなく修築や保全も、③施主だけでなく設計、施工者も含めて、顕彰しようとしている点が挙げられます。期間の幅も、募集締切の日から過去3ヶ年以内に施工完了したものであるということで、市民が応募しやすい条件となっています。

(2) 島原市まち並景観賞の運営と効果

選考委員は、HOPE計画推進協議会の委員6名に市内の美術教員や写真家など4名の10名で、上述の「住いからのまちづくり」の精神が反映する構成となっています。事務局は、HOPE計画以来建設課が担当しています。

87～97年度と実施され、毎年33～60件の応募があり、毎回10点が顕賞されました(97年は11点 表-1)。年間の建築確認申請が300～400余件ですから、その10～15%以上の応募件数で、3%程の数が顕彰されているということになる。この蓄積は、点から線、線から面へと確実に街並景観を形成し(図-1)、市民、設計者、施工者の街並景観への意識を啓発促進しています。顕彰建物などの集積する島原城周辺や大手川・県道沿いあるいは商家筋では、事実上の具体的な景観形成指針の提示としての効果を発揮するに至っています。

顕彰を受けたものは、当然のことながら街並景観への施主、設計・施工者の意識の高さが反映しています。そして、街並みにあった魅力的な建物や工作物などが一つできると、その周辺にはそれをさり気なく意識しながら一工夫を加えた建物や工作物ができています。一人ひとりの市民の「わが街島原」への愛情と思い入れが形となって現れ、街並をつくりだしているのです。こうして、次第に市民や関係業者の間に、劣悪なものは企画したり、受け請ったりできないという向上的な倫理規範が醸成されてきているようです。

これまで10回の実績をみると、景観コンセプトがイメージされやすい旧城下町にあたる森岳・霊丘地区での応募と顕彰が多くなっています。農村集落や国道沿いあるいは臨海部などでの意欲的な試み、さらには地区の景観に重要な役割を果たしている建物や工作物等の維持管理の良い実績を、今後大いに顕彰したいものです。

まわりの環境と景観・歴史などへの思いやりに優れた建物等が、年々、市内の至る所に創られ、保全され、維持管理されていくなら、それはまちの持つ



品格をいやがうえにも高め、優れた街並を現代に創り出している市民の精神文化の薫りを、このまちを訪ねる人々に感じさせずにはおかないでしょう。

(3) 大手周辺街並景観指針の作成と普及

島原市の都心を流れる大手川の改修が88年の水害を契機に本格化し、平行して走る県道大手折橋線の拡幅も行われることになりました。こうした改修や拡幅事業にともなって、建替や改築などが多数予想されました。市の中心地「顔」ともいべき大手周辺の街並景観形成の上で極めて重要な機会であり、これまでのまち並景観形成のさまざまな取り組みを発展・結実させる大切な機会だとして、HOPE計画推進協議会の中に景観委員会が設置されました。

県道拡幅と河川改修の事業前後の空間変容を示す1/250模型を作成し、景観形成の各地の事例も研究のうえ、街並景観指針としてパンフレット「メインストリートと川辺の街並景観づくり」にまとめました。そして、パンフレットを関係する全ての権利者と事業者に向けて配布し、街並景観形成への協力を求めています。



4. まとめ

HOPE計画推進協議会を軸とした計画策定以来の持続的なさまざまな取り組みと、その一つであるまち並景観賞という目に見える事業の蓄積が、島原独自の街並景観づくりに対する市民的合意をさらに進展させてきています。これまでの取り組みを以下のように中間的にまとめてみました。

- ①HOPE計画策定を契機に、住いづくりからのまちづくりをさまざまなイベント、研究、事業、PRを系統的に展開してきたことが、街並景観形成への市民的合意を促進しました。
- ②HOPE計画推進協議会(会長=助役、学経2、市会1、県2、公庫1、建設業協会2、建築士会2、宅建協会1、技能士会1、市職員2)を機能させ、ここを軸に企画・運営したことが、さまざまな取り組みを系統的・持続的にしました。また、これと関連して、行政関係機関・部署の連携が円滑に展開されたことも重要な点でした。

- ③街並景観賞の性格が、建築や塀、庭などの新築・建替、改修、保全など誰もが応募しやすく、島原市の建築等の活動の実態に合っていました。また、第1回の表彰結果が、市民のそうした理解を一層強めました。
- ④街並景観賞の蓄積は、確実に街並景観形成への市民、設計者、施工者の意識を啓発し、顕彰の集積する島原城周辺や商家筋では事実上の具体的な景観形成指針の指示としての効果を発揮して来ています。
- ⑤人口4万5千人、年間確認申請300～400余件という小都市では、「褒める」という顕彰方式での景観形成は相当の効果を収めていると評価されます。それは、建築活動が相当程度把握可能だということや、城下町で湧水等自然環境が街並に生かされているという点で、まち並景観に対する市民共通のイメージが成立していることなどに起因していると考えられます。

島原市まち並景観賞・応募件数と表彰内訳

表彰 年次	応募 件数	表彰 件数	表彰の内訳				建築物		構築物等			住宅		店舗 事務所	施設	その他
			景観	保全	協力	奨励	新築	改修	新設	改修	保全	専用	併用			
88	33	10	4	2	2	2	3(2)	2	1	2(1)	2	1	—	2	3	4
89	33	10	2	—	4	4	2	—	4	3(1)	1	3	—	—	1	6
90	33	10	3	2	2	3	7(1)	2	—	—	1	2	3	2	2	1
91	44	10	2	1	4	3	3	2	3(1)	2(2)	—	4	1	—	—	5
93	31	10	2	—	4	4	10	—	—	—	—	4	4	2	—	—
94	53	10	3	—	3	4	9(1)	1	—	—	—	5	1	3	—	1
95	60	10	3	1	4	2	9	1	—	—	—	5	1	3	—	1
96	55	9	2	—	4	3	7	—	2(2)	—	—	4	2	—	2	1
97	49	10	3	—	4	3	8	—	2	—	—	5	—	1	2	2
98	56	11	2	—	4	5	8	2	1	—	—	7	1	1	—	2
計	447	100	26	6	35	33	66(4)	10	13(3)	7(4)	4	40	13	14	10	23

() 内の数字は公共団体が施主の内数を示す

HOPE計画推進事業年表

昭和59年度（1984）	HOPE計画策定委員会・幹事会結成 島原市地域住宅計画策定 HOPE計画策定調査報告 「シンポジウム・ディスカッション」島原市の住宅住環境について
昭和60年度（1985）	建築無料相談所 石垣道祖新水路調査 住宅フェア わが街スケッチ大会 わが町島原講演会 柏野住宅基本計画策定 HOPE計画概要版策定
昭和61年度（1986）	建築無料相談所 柏野住宅第1期工事：30戸 HOPE計画推進協議会設立 第1回HOPE計画推進協議会 住環境の指針作成
昭和62年度（1987）	第2回HOPE計画推進協議会 わが街写真コンテスト 柏野住宅第2期工事：32戸 第3回HOPE計画推進協議会 まち並景観賞表彰要綱 まち並景観賞：応募数33件 婦人学習会 環境カルテ発刊 HOPE計画概要版発行
昭和63年度（1988）	第4回HOPE計画推進協議会 柏野住宅第3期工事：24戸 第5回HOPE計画推進協議会 家づくりガイドブック モデル設計図集発刊 まち並景観賞：応募数33件
平成元年度（1989）	まちづくり懇談会 第6回HOPE計画推進協議会 第7回HOPE計画推進協議会 まちづくり研修会 わが街島原写真コンテスト まちづくり懇談会 まちづくり特版 第8回HOPE計画推進協議会 まち並景観賞：応募数44件

平成2年度（1990）	第9回HOPE計画推進協議会 柏野住宅第4期工事：12戸 第10回HOPE計画推進協議会 大手周辺まち並景観指針作成 第11回HOPE計画推進協議会 まち並景観賞：応募数33件
平成3年度（1991）	第12回HOPE計画推進協議会 柏野住宅第5期工事：12戸
平成4年度（1992）	全国HOPE計画推進シンポジウム参加 第13回HOPE計画推進協議会 復興住宅デザイン審査会 まち並景観賞：応募数31件
平成5年度（1993）	第14回HOPE計画推進協議会 まち並景観賞：応募数53件
平成6年度（1994）	第15回HOPE計画推進協議会 第16回HOPE計画推進協議会 まち並景観賞：応募数60件
平成7年度（1995）	地域高齢者等住宅計画策定 第1回地域高齢者等住宅専門部会 地域高齢者等住宅専門部会設置要綱策定 まちづくり懇談会 第17回HOPE計画推進協議会 第2回地域高齢者等住宅専門部会 第3回地域高齢者等住宅専門部会 地域高齢者等住宅計画報告書・概要版・パンフレット作成 まち並景観賞：応募数55件 第18回HOPE計画推進協議会
平成8年度（1996）	高齢社会住まいづくり講習会 住宅フェア 高齢者対応住宅モデルルーム開設 高齢者住まいづくり相談 第19回HOPE計画推進協議会 第20回HOPE計画推進協議会 まち並景観賞：応募数55件
平成9年度（1997）	高齢者等住環境研究会（イキイキあんみつ倶楽部）1回／月 高齢者対応住宅モデルルーム増設 住宅フェア まち並景観賞：応募数56件 第21回HOPE計画推進協議会 第22回HOPE計画推進協議会

委員一覧

1988	石野 治	建築	長崎総合科学大学教授
	鮫島 和夫	建築	長崎総合科学大学助教授
	神田 重信	行政	長崎県住宅課長
	池見 正明	行政	長崎県振興局建築課長
	朝来 孝	建築	元市建築課長
	宮崎 圭介	写真	有明保養院
	江川 好光	美術	島原市第2中学校校長
	西本 親雄	美術	県立島原工業高校教諭
	森川 末承	行政	島原市助役
	日向 正路	行政	島原市建設課長
1989	石野 治	建築	長崎総合科学大学教授
	鮫島 和夫	建築	長崎総合科学大学助教授
	神田 重信	行政	長崎県住宅課長
	池見 正明	行政	長崎県振興局建築課長
	朝来 孝	建築	元市建築課長
	宮崎 圭介	写真	有明保養院
	江川 好光	美術	島原市第2中学校校長
	西本 親雄	美術	県立島原工業高校教諭
	森川 末承	行政	島原市助役
	日向 正路	行政	島原市建設課長
1990	石野 治	建築	長崎総合科学大学教授
	鮫島 和夫	建築	長崎総合科学大学助教授
	井上 俊之	行政	長崎県住宅課長
	池見 正明	行政	長崎県振興局建築課長
	朝来 孝	建築	元市建築課長
	宮崎 圭介	写真	有明保養院
	江川 好光	美術	島原市第2中学校校長
	西本 親雄	美術	県立島原工業高校教諭
	森川 末承	行政	島原市助役
	日向 正路	行政	島原市建設課長
1991	石野 治	建築	長崎総合科学大学教授
	鮫島 和夫	建築	長崎総合科学大学助教授
	井上 俊之	行政	長崎県住宅課長
	諫見 正允	行政	長崎県振興局建築課長
	朝来 孝	建築	元市建築課長
	宮崎 圭介	写真	有明保養院
	江川 好光	美術	深江町立深江中学校長
	西本 親雄	美術	県立島原工業高校教諭
	森川 末承	行政	島原市助役
	日向 正路	行政	島原市建設課長
1993	石野 治	建築	長崎総合科学大学教授
	鮫島 和夫	建築	長崎総合科学大学助教授
	井上 俊之	行政	長崎県住宅課長
	諫見 正允	行政	長崎県振興局建築課長
	朝来 孝	建築	元市建築課長
	宮崎 圭介	写真	有明保養院
	江川 好光	美術	深江町立深江中学校長
	西本 親雄	美術	県立島原工業高校教諭
	嶋井 宏章	行政	島原市助役
	西田 康夫	行政	島原市建設課長
1994	石野 治	建築	長崎総合科学大学教授
	鮫島 和夫	建築	長崎総合科学大学助教授
	小川 陵介	行政	長崎県住宅課長
	五反田 清	行政	長崎県振興局建築課長
	朝来 孝	建築	元市建築課長
	宮崎 圭介	写真	有明保養院
	江川 好光	美術	深江町立深江中学校長
	西本 親雄	美術	元県立島原工業高校教諭
	力安 孝喜	行政	島原市助役
	大久保 良明	行政	島原市建設課長
1995	石野 治	建築	長崎総合科学大学学長
	鮫島 和夫	建築	長崎総合科学大学助教授
	小川 陵介	行政	長崎県住宅課長
	五反田 清	行政	長崎県振興局建築課長
	宮崎 圭介	写真	有明保養院
	江川 好光	美術	元深江町立深江中学校長
	西本 親雄	美術	元県立島原工業高校教諭
	力安 孝喜	行政	島原市助役
	大久保 良明	行政	島原市建設課長
1996	石野 治	建築	長崎総合科学大学学長
	鮫島 和夫	建築	長崎総合科学大学助教授
	小川 陵介	行政	長崎県住宅課長
	前田 伸生	行政	長崎県振興局建築課長
	宮崎 圭介	写真	有明保養院
	江川 好光	美術	元深江町立深江中学校長
	西本 親雄	美術	元県立島原工業高校教諭
	力安 孝喜	行政	島原市助役
	林田 誠治	行政	島原市建設課長
1997	石野 治	建築	長崎総合科学大学学長
	鮫島 和夫	建築	長崎総合科学大学助教授
	伴丈 正志	建築	長崎総合科学大学助教授
	小川 陵介	行政	長崎県土木部住宅課長
	前田 伸生	行政	長崎県振興局建築課長
	宮崎 圭介	写真	有明保養院
	江川 好光	美術	元深江町立深江中学校長
	西本 親雄	美術	元県立島原工業高校教諭
	力安 孝喜	行政	島原市助役
	林田 誠治	行政	島原市建設課長
1998	石野 治	建築	長崎総合科学大学学長
	鮫島 和夫	建築	長崎総合科学大学助教授
	伴丈 正志	建築	長崎総合科学大学助教授
	村主 英明	行政	長崎県土木部住宅課長
	林 富士朗	行政	長崎県振興局建築課長
	宮崎 圭介	写真	有明保養院
	江川 好光	美術	元深江町立深江中学校長
	西本 親雄	美術	元県立島原工業高校教諭
	力安 孝喜	行政	島原市助役
	林田 誠治	行政	島原市建設課長

高齢者等住宅計画推進事業

●島原市イキイキあんみつ倶楽部の試み

長崎総合科学大学助教授 鮫島 和夫

◎魅力ある高齢社会と生活空間づくりの主役

待ったなしの高齢社会を迎えて、福祉のまちづくりや高齢者対応の住宅対策などの取り組みが、遅ればせながらあちこちで始まり、高齢××は一種流行のような観を呈しています。

関係する条例や制度、マニュアルといったものが次々とつくられ、パンフレットなども発行されていますが、肝心の現場ではまだまだこれからというのが実情です。

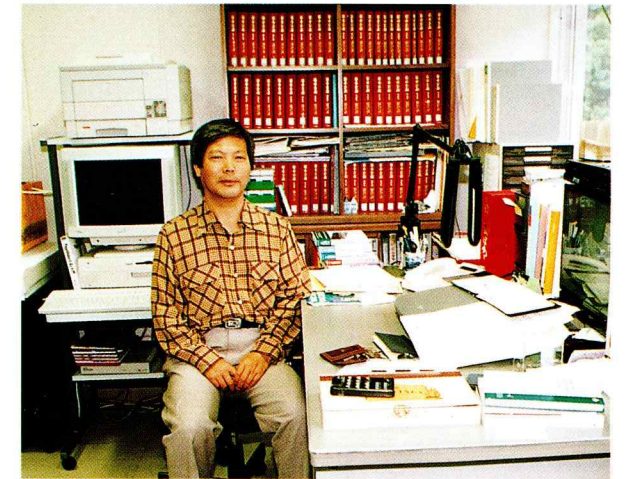
さて、高齢社会とはどんな社会なのでしょう。還暦を越えて、多くの人々が気力・体力も十分に多少の貯えもあって、自律して人生の第三ラウンドを展開しようという社会は、日本人はもちろん人類の歴史上も初めての経験であり、そのこと自体喜ばしいことです。

社会的分業や子孫育成など義務的な務めから解放されて、自分自身を成長させ、長期的な関心事を追及する自由と時間が生まれ、これまでの貯蓄と新たな挑戦をあわせて社会に貢献できるのです。

しかし、初めての経験ということは、どこにもモデルはありません。

わたしたち現在は生きる者が、なにより高齢者自身が発言し行動していかななくては、安全・安心・快適なすばらしい高齢社会の仕組みも、生活空間も創られていきません。

これまでの日本の社会と生活空間は、元気で頑強な壮健者中心に造られてきました。それを



肉体的・経済的・心理的な各面でゆるやかに減退していく高齢者にあったものに変えていかねばなりません。

社会的・経済的・心理的・空間的なバリアー（障害）を取り除いていって、高齢者自身が自立し、自律的に生活を展開し、さまざまな選択の自由とプライバシーの尊重が計られ、親しい付き合いが維持・発展させられるようにすることが大切です。

こうした取り組みは、高齢者だけでなく、子供や障害者や壮健な人々にも快適な社会や生活空間を創り出します。ところで、高齢者問題への接近は、これまで福祉や保健、医療の面から多くの事がなされ、住宅の改造なども近年取り組まれ出しています。

しかし、それらは各専門分野ごとの接近に止まっていて、それらを協働させることで総合的な問題解決と展開を図ることや、高齢者が何かしてもらう人つまり施設や介護の対象になっていて、自らが考え、判断し、支援を得て事態を改善していく主体になっていない点に、今後の取り組みの課題があります。

それゆえ、高齢者が中心となって、さまざまな分野の人達と協働して、安全・安心・快適に住み続けられる住まいとまちを創り出していく試みが多数行われ、経験が報告・交流されることが期待されています。この小文では、そんな取組の一例として島原市で今夏から始まった「イキイキあんみつ倶楽部」を紹介します。

◎島原市地域高齢者等住宅計画

島原市の高齢化は、65歳人口比率が75年11%から97年21%へとこの二十余年で二倍と急速に進行しました。

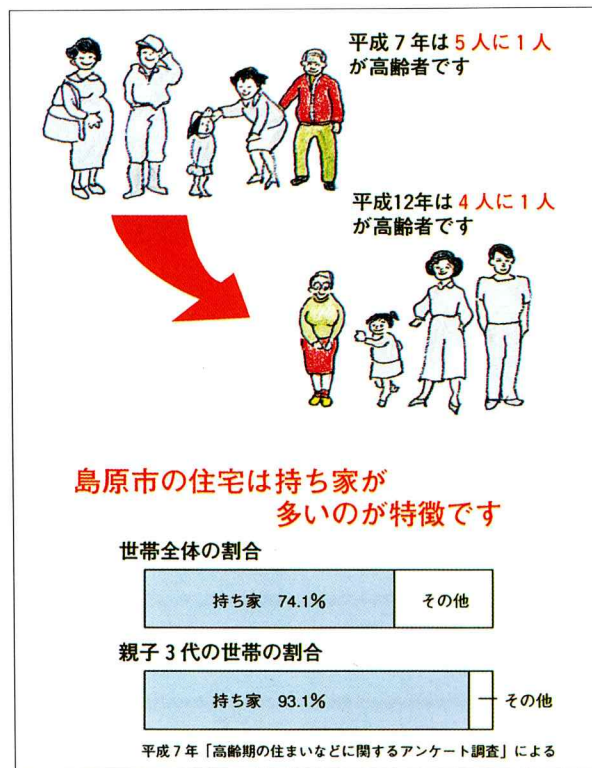


表-1 島原市の人口・世帯数の変化(75→97)

年次	総人口	高齢人口 (65歳以上)	割合	生産年齢人口 (15～64歳)	割合	世帯数	1世帯人数
97	40,835	8,441	20.7%	25,643	62.9%	14,387	2.83
75	45,179	4,924	10.9%	28,614	63.3%	9,156	5.04

(97.3:住民基本台帳 75:国勢調査)

総人口がこの間90%に減少したのに世帯数は157%と大幅に増加しました。

生産年齢人口割合がほとんど変動していないことから、子供が減って高齢者が増加し、あわせて高齢者世帯が増加しているのが判ります。

(表-1)

急速に進む高齢化への積極的な対応をめざして、島原市では住宅マスタープラン(地域高齢者等住宅計画)を96年3月に策定しました。一つの基本方針、六つの重点事業、二つのモデル事業が提案されています。

基本方針はつぎの三つです。

- 一、安心して住み続けられる住宅の確保
- 二、自立を支援する地域ネットワークの一層の形成
- 三、生き生きと生活できる居住環境の整備

重点事業は、以下の六つです。

- 一、市民に対する住まいの啓発・普及
- 二、高齢者住宅改造助成制度の応援体制づくりと運用
- 三、公営住宅の建替などにおけるバリアフリー化の整備の強化
- 四、シルバーハウジングプロジェクトの推進
- 五、建築物・公共空間での福祉型環境整備の推進
- 六、道路等公共空間の福祉型環境整備指針の策定

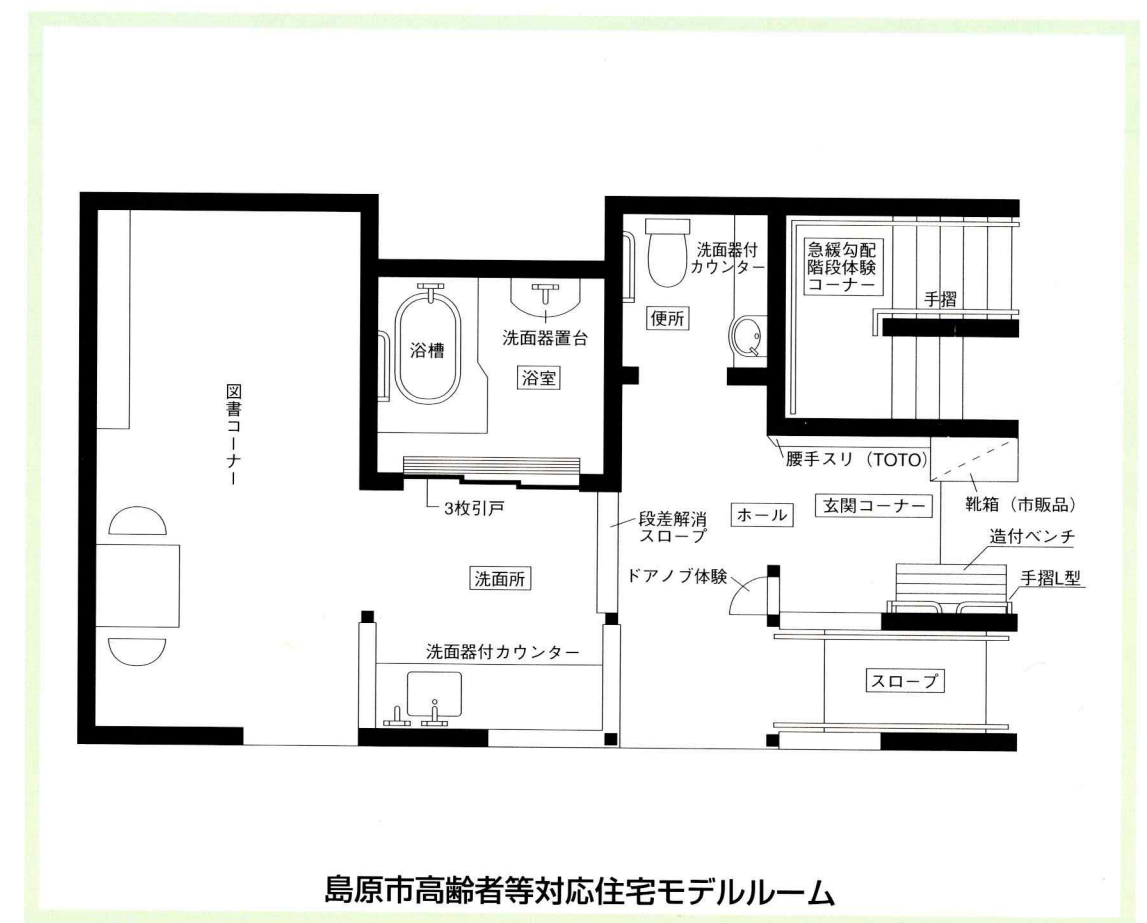
「市民に対する住まいの啓発・普及」としては、講習会と市広報による情報提供が実施されました。講習会は、96年9～10月に「安心・安全・たのしかわが家」と題する講習会が、市の主催、老人クラブ連合会・婦人会連絡協議会・身体障害者福祉協会の後援で、六地区の公民館で開催され、総参加者は100人でした。情報提供は、既に四回にわたって特集シリーズとして広報され、継続中です。

「高齢者住宅改造助成制度の応援体制づくりと運用」としては、制度利用の改造事例を96年度中に5例実現し、運用上のノウハウを蓄積しました。また、建築技術者25名を住宅アドバイザーとして登録し、応援体制の整備にも一歩踏み出しました。二つのモデル事業の一つは、「高齢者等バリアフリー住宅空間モデルルームの設



安心、安全、たのしかわが家啓発普及講習会

置」で、『高齢者等対応住宅モデルルーム』として96年10月12日市の中心商店街の一角の万町市民いこいの場に開設されました。見て、触って、体験できる施設で、立地の良さもあって来訪者も多く、見学がきっかけで自宅を改造、新築した例も生まれています。



島原市高齢者等対応住宅モデルルーム



講師の講義を受ける

もう一つのモデル事業が「**高齢者等対応住環境研究会組織事業**」です。高齢社会の住まい・まちづくりに関心のある高齢者を含む人々で、実際に調査研究し、行動実践してみようという集団づくりです。97年8月に始まり、高齢者等対応住環境研究会という堅い呼称に、みんなで「イキイキあんみつ倶楽部」と愛称を付けたところです。

◎イキイキあんみつ倶楽部

「イキイキ」は高齢者が生き生きと暮らすことを、『あんみつ』とは、安心・安全・安住の三つの「あん」を意味しており、高齢者が住み慣れたところで住み続けられることをめざす集団を標榜する愛称です。構成メンバーは、市の募集に応募した多彩な顔触れ12人です。写真師、画塾主宰・育児情報誌記者、法曹・心身障害者育成会員、建築士、作業療法士、元校長、歯科技工・ライオンズ幹事、デザイナー・ボランティア協議会事務局、ゆずの会元会長、デイサービス施設長・不動産飲食店経営、主婦など意欲とボランティア精神に溢れ試され済みの実践と行動力抜群の人達です。年齢構成は、最年長72歳、最年少30歳、平均年齢は49.8歳です。顧問団には大貝環境計画研究所長の太田知子氏、県

福祉のまちづくり推進室の鈴木省悟氏、そして私が加わり、事務局は島原市建設課が引き受けています。

8月に発足以来、毎月一回のペースでこれまで四回の研究会を開催しました。

8月は、メンバーの自己紹介と研究会の進め方を確認した後、島原市の高齢社会とその対応の現状と課題について大貝さんのレクチャーがあり、学習と討論を行いました。続いて、万町の高齢者等対応住宅モデルルームを見学・検証し、さらに最年長メンバーの紹介で、このモデルルーム見学がきっかけでバリアフリー住宅を建築されたお宅を見せてもらいました。メンバーの住宅改造の経験も紹介しあいました。

最後に、メンバーの周囲の人達に、住宅の不便・危険箇所、住宅改造の実態や意向、住宅改造の困難要因、まちの不便・危険箇所・要因などについてのアンケートを行うことを宿題にしました。

9月は、福祉制度とまちづくりについて鈴木さんのレクチャーを受けた後、市内のデイサービスセンター宝生園とデイケアセンター・フオースター島原を視察にいきました。



移動リフトを体験する



老人ホームで高齢者と語り合う

それぞれの施設の先進的な取り組みがなかなか刺激的で、興味深いものでした。次回までにメンバーの居住地区を中心に、まちづくりで改善したいところ・もっと生かしたいところ等を調べ地図と写真とコメントでまとめて来ることになりました。10月は、先のアンケートの中間集約の結果を概観し、引続き調査を進めることを確認しました。



擬似体験を行なう

つづいて、二人のメンバーによるわがまち点検評価が、地図と写真と小気味良いコメントで発表されました。高齢者や子供、盲人などにとって歩きやすい道路の舗装や路上状態か、指摘の内容に一同賛同と追加の意見が続出でした。

研究会の目的は、こうした問題の解決のために行動することなので、何らかのまとめと提言を来春までに行うことにしました。

また、この時、研究会の愛称を、議論の末に「イキイキあんみつ倶楽部」に決めました。

11月は、県内施設見学に出掛けました。諫早のバリアフリー住宅のモデル・在宅介護ハウス21、佐世保の特別養護老人ホームゆずの里・老人保健施設コスモスとバリアフリー生活館を見学しました。このように、「学習する」「現場やいいものを見る」「みんなが調べ発表する」「意見を出し合って行動する」ことをモットーに進めています。



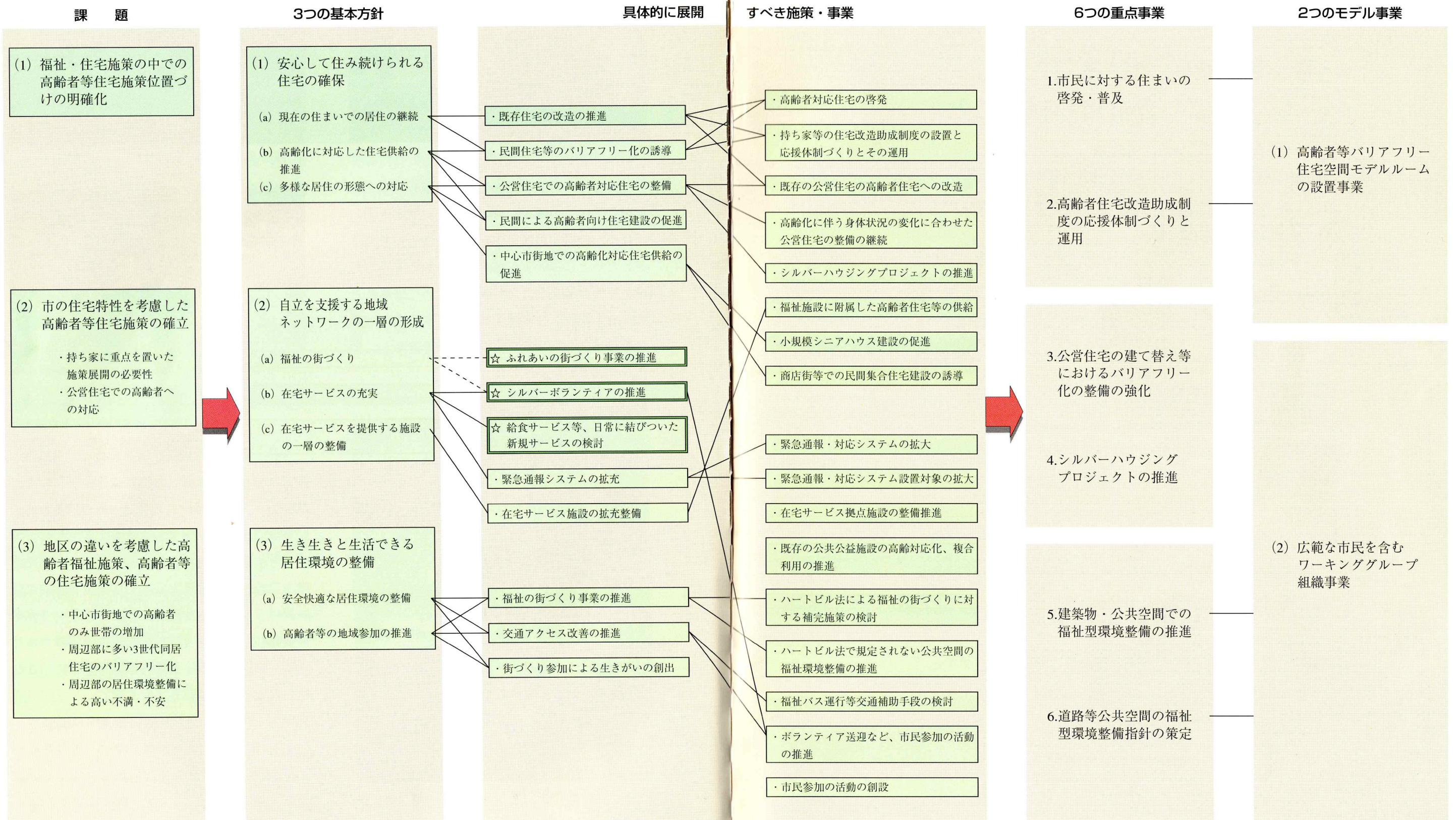
街中のバリアを点検する

今後、わがまち点検評価を進めて、島原市の中心街や市内各地区にバリアフリーゾーンを形成する具体的提言やアンケートを基に具体的に住宅改造のお手伝いをしようなどと話し合っています。高齢者自らが行動し、多くの人達の支援も得て、生き生きと安心して安全に快適に住み続けられるまちを創り上げていくという高齢社会の生活空間づくり、その小さな実験であるこの「あんみつ倶楽部」の試みをぜひ成功させたいとたのしく頑張っています。

(すかやか長寿NAGASAKI No11より)

推進事業スケジュール

(i) 住宅マスタープランのフローチャート



※ ☆ は福祉事務所による現在の取り組みを示す

今、取り組んでいること これから取り組むこと

○高齢社会の住まいづくりについての情報提供をおこないます。
なかでも、皆さんが住まいを建設する時や改造する時に役立つ
さまざまな情報を提供します。

○高齢者の住宅改造に対する島原市の助成制度が平成 8 年度に始
まります。
福祉や住宅行政などの連携に留まらず、保健・医療・建築技術
者など専門家による住宅改造の支援をめざします。

○高齢期でも安心・快適に暮らせる住まいの工夫を皆さんに見学
していただけるよう、モデルルームを開設します。

○公営住宅では平成 4 年から加齢に対応した工夫をしています。
今後の新設や建替え団地建設などでは、より一層、高齢者等に
やさしい『住宅・住環境』をめざします。

○道路や公園など、街の中の空間が高齢者・障害者や子供など、
全ての人にやさしい街づくりを、皆さんの協力で進めます。

編集委員名簿

委員長	石野 治（長崎総合科学大学理事）
委員	鮫島 和夫（長崎総合科学大学助教授）
	村主 英明（長崎県住宅課長）
	林 富士朗（島原振興局建築課長）
	力安 孝喜（島原市助役）
	林田 誠治（島原市建設課長）
事務局	島原市役所建設課